E			
単位: mm	4	3-2-3-5	3-2-3-6
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			w (D)
英 世 洪 崇	基準高は施工延長40m (測) の場合は50m) につき 1 ヶ月 以上 m (又は50m) 以下のもの (測) 変位は、施工延長20m (測) の場合は25m) につき 1 ヶ月 m (又は25m) 以下のもの (別) 所につき 2 ヶ所。	200 1ヶ所/1 施工箇所	 設計値以上 1ヶ所/1基 30 基礎1基毎 130 230 240 250 260 <
三 四 四 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	# 厄 女 ○ 哦 0	了 百 百 百 百 百 百 百 百 百 百 百 1 1 1 1 1 1 1 1	設置 高 な 日 設計 幅m (D) 上
X		5 (歳石・アスカーブ)	6 小型標識工
程	· 5 · 5 · 5 · 5 · 5 · 5 · 5 · 5 · 5 · 5	3共通的工種	3共通的工種
扣	- 21	2一般施工	2一般施工
ļ.	・ 3土木工事共通編	3土木工事共通編	3土木工事共通編

田							千人いが1								
単位: mm	五	3-2-3-7		3-2-3-8				c c	3-2-3-8						
	測 定 箇 所			≥ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	-u		H		<u> </u>				H SIBIISIS		
	測 定 基 準	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1ヶ所測定。	1ヶ所/1 施工箇所	1ヶ所/施工延長40m 40m以下のものは、2ヶ所/1 施工箇所。		1ヶ所/1施工箇所		\	1ヶ所/1基礎毎			1ヶ所/1施工箇所			
	規格値	- 30 - 30	- + 30 - 20 - 20	-30	-30	+30 -20			-30	-30	-100	+30 -20			
	测定項目	開 を 単 の い 内	パイプ取付高 H	m 型 m + m + m + m + m + m + m + m + m +	始施 画 水 In	ビーム取付高 H		_	M	基礎 高 さ h	延長 1	ケーブル取付高 H			
	工	防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止 柵) (車止めポスト)		路側防護柵工(ガードレール)				十二十十十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	路側防護柵工(ガードケーブル)						
	枝番			1											
	₩	2		∞											
ŀ	短	3共通的工種	<u>!</u>	の共用						3共通的工種					
	肿	2一般植工							○ /						
	臛	3土木工事共	河潭	m H K	- H 	(浬飔		c	m 41 K	日事業	河潭				
L									3土木工事共通編						

			山木が自垤を年及びが	76 TH IIIE
	摘	3-2-3-9	3-2-3-10	3-2-3-11
	測 定 箇 所		р При при при при при при при при при при п	
_	規格値	各線種毎に、1ヶ所テストピースにより測定。 設計値以上	1ヶ所/10本 10本以下の場合は、2ヶ所測定。	鋼道路橋防食便覧 塗装系ごとの塗装面積を算出・照査し II-82 「表- て、各塗料の必要量を求め、塗付作業 II.5.5各塗料の標 の開始前に搬入量(充缶数)と、塗付 準使用量と標準膜 作業終了時に使用量(空缶数)を確認 厚」の標準使用量 し、各々必要量以上であることを確認 以上。 1 ロットの大きさは500㎡とする。
	测定項目	一		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	工	区画線二	道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	コンクリート面塗装工工を表
	枝番			
	₩	o	10	11
	锤	3共通的工種	3共通的工種	3共通的工種
	肿	21級権工	2一般植工	2一般施工
	黨	3土木工事共通編	3土木工事共通編	3土木工事共通編

	摘要	3-2-3-12						3-2-3-12					
	測 定 箇 所				WIND L	ŷ.	平面図	w 面図	L	Will BRICK.	7	δ ₂	
	測定基準	析全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 **: **: **: **: **: **: **: **: **: **			100)		2位	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーノ表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づっまがは、製造工場の発行するJISに基づきまた。また、サール・ディー・ディー・	く対釈以虞汝に合えるしてかにおる。				
	規格値	$\pm L / 1000$	± 5	8 +1	±10			$\begin{array}{c} \pm 10 \cdots \\ L \leq 10 \text{m} \\ \pm L / 1000 \cdots \\ L > 10 \text{m} \end{array}$	+I 5:	∞ +I	± 10		
	測定項目	析長 L (m)	断面の外形寸法	橋 桁 の そ り 8 ₁	横方向の曲がり δ_2			析長 L (m)	断面の外形寸法	橋 桁 の そ り 8 ₁	横方向の曲がり δ_2		
	枝番 工 種	 プレテンション桁製作 工 (購入工) 	(けた橋)					2 プレデンション桁製作 エ (購入工) (スラブ桁)	1	<u>'</u>			
H		12						123					
)	の共は	■名 -	一種				の共通的工種					
-		2 \$						27 一 般 権 工					
	灩	m +1 +1	KH	1 年 重 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				3土木工事共通編					

単位: mm	摘	3-2-3-13 注)新設のコンク リート構造物(橋 樂上・下部工およ	び重要構造物であ る内空断面積25㎡ 以上のボックスカ ルバート(工場製	作のプレキャスト 製品は全ての工権 において対象 外))の鉄筋の配	形式なないかかり については、非 破壊試験によった アクリート構造的 中の配筋状態及び かぶり適所状態及び も併せて適用する		3-2-3-13		公子 人 ひ がれ 旧 世	3-2-3-14					
	測 定 箇 所		. W.		w ₂ h										
	測定基準	. /	析財由寸法測に歯児(1、回端部、甲央部の 3ヶ所とする。 ない 3ヶ所とする。 なお、JISや一ク表示品を使用する場 へは、自然エーロ(マベーナ・Tro) # 1、	ロは、装垣上端の34119のJDNに辞りく試験成績表に替えることができる。 0:大間長 (m)			桁全数について測定。桁断面寸法測定 箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。			布全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッ シング後に測定。 桁断面→法測定値所は、両端部、中央 部の3ヶ市ケ中名	,				
	規格値	+10 5	+ 2	+10 5	$\begin{array}{c} \emptyset < 15 \cdots \pm 10 \\ \emptyset \geqq 15 \cdots \\ \pm (\emptyset - 5) \\ -30 \text{mm} \text{LL} P^{\text{S}} \end{array}$	0.80	I	_		$0 < 15 \cdots \pm 10$ $0 \ge 15 \cdots$ $\pm (0 - 5)$ $\hbar > 2$ -30 mm LVM	0.86				
	測定項目	幅 (上) w1	幅 (下) w ₂	画 な 内	析 長 0 支間長	横方向最大タワミ	析長0	断面の外形寸法 (mm)		桁 長 0 太間長	横方向最大タワミ				
	工種	ポストテンション桁製作工					プレキャストセグメン ト桁製作工 (購入工)			プレキャストセグメント主桁組立工					
	枝番	1					2								
	豢	13					13			14					
	節	5年 年3	旳工種				3共通的工種			3共通的工種					
	掛	2 袋‡	型 円				01	般極で	1	27一般插下	27 級插工				
	響	m 41 ⊀ 1	上事共に				ი H	K H ₩	中共運爆	3土木工事	3土木工事共通編				

	増 産	3-2-3-15注)新設のコンクリート構造物(権	※十・下部日 次元 次元 一 下部日 かい 三 次 一 田 華 部 著 か が か	の事べ る内容 野面積 25m 以上のボックスカ	ルバート (工場製作のプレキャメト 製品打合その工稿 において外象 かっかがの 所状況及びかぶり 所状況及びかぶり については、 が状況及びかぶり	を検討をいた。 スクリート権造物 中の関係状態及び かぶり測定整備) も併せて適用する	3-2-3-16 円 ※ 2-3-16 と ※ 2-3-16 と ※ 2-3-16 と ※ 2-3-16 と ※ 3-16 と ※ 3-16 と ※ 3-16 を 》								
	測 定 箇 所				T M M I	W2			w1		h1	W.2			
	測定基準	析全数について測定。 基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点はご)では、では、	付近)で1箇所当たり両端と甲央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端	と中央部の3ヶ所。	※鉄筋の出来形管理基準については、 第3編3-2-18-2床版工に準ずる。 0:桁長(m)		桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点	付近)で1箇所当たり両端と中央部の 3点、幅及び高さは1径間当たり両端	と中央部の3ヶ所。	※鉄筋の出来形管理基準については、 第3編3-2-18-2床版工に準ずる。	0:桁長 (m)				
	規格値	750	$-5 \sim +30$	$-10 \sim +20$	$\emptyset < 15 \cdots \pm 10$ $\emptyset \ge 15 \cdots$ $\pm (\theta - 5)$ カン -30mm以内		±20	$-5 \sim +30$	$-5 \sim +30$	1+2	$+10 \\ -5$	$^{+10}_{-5}$	$0 < 15 \cdots \pm 10$ $0 \ge 15 \cdots$ $\pm (0 - 5)$ かつ -30 mm以付		
	測定項目	事	响 $\mathbf{w}_1, \mathbf{w}_2$	厚 さ t	析長0		基準高	幅(上) w1	幅 (F) w_2	内空幅 w ₃	高 ペ h ₁	内空高さ ${ m h}_2$	 □ □		
	工	P Cホロースラブ製作 エ					P C 箱桁製作工								
	枝番						П								
	₩	15					16								
	ఱ	с # μ	埋的	. H #	围		5 共通的工種								
	神	27 章	版 摇	Н			27 機権工								
	账	m 41 +	ΚH	# ‡	水		3土木工事共通編								

単位:mm	搬	3-2-3-16 注)新設のコンク	リート権治物(権 楽上・下部上お上 下部上おい に 単権治を かん	の 本 な な な な な が が が が が が が が が が が が が	ルベート (上場段 作のプレキャスト 製品は全ての工種	において対象 外))の鉄筋の配 筋状況及びかぶり	についてれば、 破験をできる。 インタリーを 中の配筋状態を かぶり週代数を かがり週代数値 と守されて がははれて を がはれて が用する。	3-2-3-17 1	+ 12 0 %						
	测定简所			W. 1		h1 w3	W2	W. L.					+	/+++++/ /+++++/ tは根固めブロックの高さ	
	測 定 基 準	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央	部の3ヶ所とする。	※鉄筋の出来形管理基準については、 第3編3-2-18-2床版工に準ずる。	0:桁長 (m)			施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		1 施工箇所毎	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	1 施工箇所毎		
	規格値	$-5 \sim +30$	$-2 \sim +30$	1+2	$+10 \\ -5$	$+10 \\ -5$	0<15…±10 0≥15… ± (0−5) カン −30mm以内	±100	-20	-20	-200	± t /2	- t / 2		
	测定項目	幅 (上) w ₁	幅 (下) w ₂	内空幅 w ₃	声 よ h ₁	内空高さ $ m h_2$	析長0	△皇蒹華	画 t t	幅 W_{1} , W_{2}	延長 L_1 , L_2	基準高▽	延長 L_1 , L_2		
-	工	P C押出し箱桁製作工						根固めブロックエ	層			- 元秦			
	枝番	2													
	⋘	16						71							
-		ი #						· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·							
-		07			AIIDI Temp			27 發植 1	11c smpt inor						
	臛	ლ 	ΚH	事共	浬赈			3土木工事共通編							

=		1	四八八日子名	を年以い呪怜他 				
単位:mm	摘要	3-2-3-18	3-2-3-19	3-2-3-22	3-2-3-24			
	測 定 箇 所) (本事 (本事) (本事			
	測定基準	1 組毎	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき2ヶ所。	1 回/ 1 施工箇所	車道端部及び中央部付近の3点を測定。 定。 表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下			
	規格値	±150 ±300 -200	-100 -100 -200	-30 -30 ±0段	±3 3 舗装面に対し 0~-2			
	测定項目	基準高 極 延長L	基 通 派 天 大 大	画画画 画	据付け高さ表面の凹凸仕上げ高さ			
		沈 子 子	石	工谷類	(ゴムジョイント)			
-	枝番							
-	₩		19	22	24			
-)	5 共通的工種 6	3共通的工種	5.共通的工種	3共通的工種			
-	掛	の1 数점日 の	2一般施工	21数種工	22 聚栖日			
	鱦	3土木工事共通編	3土木工事共通編	3土木工事共通編	3土木工事共通編			

	_						H // //		<u> </u>	くい現代	-							
単位:mm 摘 要	3-2-3-24							3-2-3-24			3-2-3-26				3-2-3-26			
測 定 箇 所			C.L		W2 00 11 10 11 10 12 13 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14	舗装面(仕上げ高さ	あと打ちコンクリート	(6) (大学等)	調製面 仕上げ高さ	=	7	No.						
测定基準	高さについては車道端部、中央部において車線方向に各3点計9点	表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下	歯咬み合い部は車道端部、中央部の計 3点					車道端部及び中央部付近の3点を測 定。	表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下		施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は	50m) 以下のものは1 施工箇所につき 2ヶ所。			施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は	50m) 以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。		
規格値	1+3	က	3	2	+ 2	7 = 2	舗装面に対し 0~-2	င	舗装面に対し 0~+3		+ 500	-200	-200		-100	-0.2 t	-200	
测定項目	据付け高さ	車線方向各点 誤差の相対差	表面の凹凸	歯型板面の歯咬み合い 部の高低差	歯咬み合い部の縦方向 間隔W1	歯咬み合い部の横方向 間隔W2	仕上げ高さ	表面の凹凸	仕上げ画み		○□東	法 長 0	工 刍 颈		法 長 0	厚 さ t	工 聋 頭	
T 種	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョ	\ \(\tau \)				伸縮装置工 (埋設型ジョイント)			%型護岸工	(巨石張り、巨石積 み)			多自然型護岸工	(かごマット)				
枝番	2							3			1				2			
₩	24							24			26				26			
短	の共通	的工種						の共用	的工種	<u> </u>	es #	通的下	上種		က # !	通的下	一種	
神	2 發	插工						2 一 發	(超工		22一般插上				27一般栖工			
鏖	m ± ₹	工事共	浬쀑					m ± ₹	3土木工事共通編			3土木工事共通編				3土木工事共通編		

単位:mm	展	27	四水形日往至十次0%	-58 -7						
油	華	3-2-3-27	3-2-3-27	3-2-38						
	測 定 箇 所									
	測定基準	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。						
	規格値	- 50 - 100 - 50	-100 -200	+30 -50 -200						
	测定項目	法長 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	高 を B 延長 L ₁ , L ₂	# 声						
		報 ロエ (ご や か ざ)	羽口工 (ふとんかご、かご 枠)	プレキャストカルバー トエ (プレキャストボック スエ) (プレキャストパイプ エ)						
	枝番	-	2							
	₩	2.7	27	528						
		3共通的工種	3共通的工種	のプレキャストカルバートH						
		20 最栖日	21	20一						
	臛	3土木工事共通編	3土木工事共通編	3土木工事共通編						

単化:mm	-59	ロネル自任 <u>卒</u> 年及び 然 伯 値 62
	3-2-3-29	3-2-3-29
河 定 箇 所		
测定基準	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所。 延長40m (又は50m) 以下のものは1 施工につき 2ヶ所。
規格値	±30 -200	+30 -20 -30 -30 -30 -30
测定項目	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	 基準 高
工 種	側溝工 (プレキャストリ型側 溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	側溝工 側溝工 (暗渠工)
枝番	П	e2 e
⋘	50	50 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
領	3共通的工種	の共通的工種の共通的工種
神	2一般植工	2一般施工 2一般植工
灩	3土木工事共通編	○士木工事共通編 ○士木工事共通編

目						田木が「	
単位:mm	土	3-2-3-30					3-2-3-31
	測 定 箇 所		t 3	$\begin{array}{c c} & & \\ & &$	h 1 h 2		
	測 定 基 準	1ヶ所毎 ※は、現場打部分のある場合					途装終了時に測定。 1ロットの大きさは500m ² とする。 1ロットが大きさは500m ² とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200m ² に満たない場合は10m ² ごとに1点とする。
	規格値	0£∓	-20	-30	-30		a. ロットの参議 極年均値は、田線 10. 別な一十 10. 別な一十 10. 別な一十 11. 別な一十 11. 別な一十 12. 別な一十 13. 別な一十 14. 別な一十 15. 別な一十 16. 別な
	测定項目	△島戦発	※厚さ t_1 ~ t_5	※幅 w ₁ , w ₂	※高さ $ m h_1, h_2$		瀬
	工	集水桝工					現場塗装工
	枝番						
Ī	⋘	30					31
Ī	短	3年3	的工種				5 共通的工種
	肿	2 棗	超日				2一般植工
	臛	m ± ₹	工事共	浬臛			3土木工事共通編

g F					山木形官理:	<u> </u>	. 0 790 1	H 11E		
単位: mm	摘要	3-2-4-1				3-2-4-3				
	測 定 箇 所								1 1	
	測定基準	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき	2ヶ所。			施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき	2ヶ所。			
	規格値	記計值以上	-30	各構造物の規格値 による		+30	-30	08—	-200	
	測定項目	M型	$ar{p}$ さ ${ m t}_1$, ${ m t}_2$	五 曼 延		☆ 皇 東 著	m 聞	恒 れ れ	T	
	工種	一般事項 (切込砂利)	(砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)			基礎工(護岸) (現場打)				
	枝番					1				
	₩	1				က				
)	4 基 整	Н			4 基盤	Н			
	掛	27 聚	超日			27 聚	超日			
	灩	m ± ₩	工事共	周躔	 	m ± ₹	工事共	周躔		

⊒٦		I		T .				山木ル				7 7 2 0 1							
単位:mm	摘	3-2-4-3		3-2-4-4					3-2-4-4					3-2-4-5					
	測 定 箇 所	Þ		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	1	+	D * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	×	$d=\sqrt{x^2+y^2}$			<u>,</u>	_ ×	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	70	À À) 	×	
	測 定 基 準	施工延長40m (測点間隔25mの場合は20m) につき 1ヶ所、延長40m (又は20m) 以下のものは1 施工箇所につき	2 万 JH 。	全数について杭中心で測定。					全数について杭中心で測定。					全数について杭中心で測定。					
	規格値	+ 30	999	720	設計值以上	D/4以内かつ100 以内	1/100以内		+ 20	設計値以上	100以内	1/100以内	設計值以上	720	設計値以上	100以内	1/100以内	設計径 (公称径) -30以上	
	测定項目	☆ 製 選	☆ 単 乗	根入長	偏心量 d	傾斜		大量 東 著	根入長	偏心量d	傾斜	杭径D	☆ 単 乗	根入長	p 喜 小 豐	傾斜	杭 径 D		
	校番 工 種	2 基礎工 (護岸) (プレキャスト)		既製杭工	(既製コンクリート売)	(朝宣仇) (H鄉杭)				(鋼管ンイルセメント抗)				場所打杭工					
-		2							2										
-	元 《	<u> </u>	4	K 비 1 1				4	₩D 1 1				1 13(1)	¥₩ 1 1					
-	通	2 1 以 1 以 1 4 推	4 期:	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1				報 田	1			2 1 4 4		1				
-	神		3土木工事共通編							トコ (単型)		FI IDE			トロ				
	孋	™ H ★ l	撃匪年重に	ლ 	★ Ħ‡	野羊	/ 爠		(1) H	⊀ H †	野洋野	片羅		ii) H	⊀ H ‡	野羊	√ 爟		

⊏Г									T	~/IZ E	3-15			况怕	III	1						
単位:mm	摘要	3-2-4-6							3-2-4-7							3-2-4-8						
	測定簡所	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$					_ ×		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		t h t t t				_ ×	$d = \sqrt[4]{x^2 + y^2}$					^ 	×
-	測定基準	全数について杭中心で測定。														壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量につい ては各打設ロットごとに測定。						
	規格値	720	工灯即提础	<u>E</u>)						-50	-20	-100	-20	300以内		+100	-20	-20	-100	-20	300以内	
	测定項目	五 第 基 基	根入長	偏心 量 d	傾解	基 薩 径 D			☆ 単 筆 筆	ケーソンの長さ0	ケーソンの幅 w	ケーソンの高さh	ケーソンの壁厚 t	編心量d		上 東 第	ケーソンの長さ0	ケーソンの幅 w	ケーソンの高さh	ケーソンの壁厚 t	偏心量d	
	工種	工雜狀							オープンケーソン基礎 I							ニューマチックケーン ン基礎工						
	枝番																					
	≪	φ							2							∞						
	與	4 連 糖 工							4 増	海上						4 期	海上					
	搟	27 5	般 掻 !	-1					07	袋福	-1					27	张祖 l	-1				
	臛	m H ⋅	ΚH	半半年	製厂				m Н	K H l	串半点	製厂				m Н	K H I	事共	製厂			

E L									X U)					1
単位: mm	旛	3-2-4-9			3-2-5-3						3-2-5-3			
	測 定 簡 所	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$				t t 2	a	11 tz 2		£ 2				
	测定基準	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1 基ごとに測定。			施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき	2ヶ所を測定。 2ヶ所を測定。					施工延長40m (測点間隔35mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき	2ヶ所。		
	規格値	± 100	設計値以上	300以内	+ 20	-50	-100	-50	-50	-200	+ 50	-100	-200	
	测定項目	五 第 基	根入長	偏心量由	☆ 皇 華 崔	η β<3m	Æ∀e Ø≥3m	厚さ (ブロック積張) t ₁	厚さ (裏込) t ₂	近 長 L	☆ 単 乗	法 長 0	延長 L_1 , L_2	
		鋼管矢板基礎工			アイー	(コンクリートブロッ ク積) (コンクリートブロッ					コンクリートブロック エ	(連節ブロック張り)		
	枝番				1						2			
ľ	₩	6			က						က			
}	锤	4 基礎	Н		50 在。	ブロシ	ク穂(獣)			5.在。	ブロシ	ク穂(熊) H
ŀ	計	2 蒙	插日		27 张	插日					27 黎	福工		
-	臛	m H K	日事業	浬嘿	m +1 Κ	工事共	浬赈				m H ⊀	日事半	河潭	
L											<u> </u>			

4m1	摘	3-2-5-3					3-2-5-4				<u> </u>		3-2-5-5						
	測 定 箇 所	М		XXXXX New Man	Mary Mary			1 L	2	1 tr		t, t ₂			t1 t2	0		T z	
	測定基準	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は	50m) 以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。				施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は	50m)以下のものは1瓶工箇所につき2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の5、まず過点	2ヶ庁を測定。				施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は	■50m)以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の	- 2ヶ庁を測定。 				
	規格値	± 50	-100	-200			+ 50	-20	-100	-50	50	-200	+ 50	-20	-100	-50	-20	-200	
	測定項目	△≌東署	m 뭴	延長 L			五 第 基	多多。 注	ızxe β≧3m	厚さ (ブロック) t ₁	厚さ (裏込) t ₂	工 聋 頭	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	0<3m	Æ∀υ 0≥3m	厚さ (石積・張) t ₁	厚さ (裏込) t ₂	延 長 L	
		コンクリートブロック エ	(天端保護ブロック)				緑化ブロックエ						石積(張)工						
	季	3				_													
	℀	3					4						2						
)	り石	・ブ	ロシィ	/ 馩(張) エ		る在	· /\ 1	ロシィ	/横((幣)	Н	ro Æ	· 1	ロシェ	> 穂((幣)	Н	
	胂	2 :	般 権 1	Н			27] :	般施工	-1				7	般権	Н				
	孋	ლ 	K H	事業	画 鷹		ლ 1 1	KH⊧	事業	型 廛			rs 41	K H I	事業				

_							
単位:mm		薩		3-2-6-7			
-		河 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を 描いた上での管理が可能な工事をい	い、舗装施工面積が10,000m2以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合物の総使用量が、3,000 t 以上の場	合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模はハさいものの、管理結	果を施工管理に反映できる規模の工 事をいい、同一工種の施工が数日連 もするものをいう。 ①施工面積で2,000m2以上10,000m2未 適 随便用する基層及び表層用混合物の 総使用量が300以上3,0004未満 早さは、個々の測定値が10個に30個 以上の割合で規格値を適足しなけれ ばならないとともに、10個の測定値 の平均値(Xu0)について薄起しなけれ ればならない。ともに、10個の測定値 かばならない。 を対してません。 対域10個は通過に位すれ がはは適用しない。 まだし、 厚きのデー り数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。
		測 定 基 準		基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線500m毎に1ヶ所を掘り起	こして測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔での測点によらず延長80m以下の間隔で	測定することができる。	
	格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	l	-15 -15	-	
	規格	測定値)	中規模 小規模 以上 以下	±40 ±50	-45 -45	-50 -50	
		測定項目	<u># ~ </u>	○□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	厚った		
	工			アスファルト舗装工(下層路盤工)			
	校			1			
		經 		6 7 — 殿	維 紫 田		
-		御		2 張			
		鷹		m H K	工事共	浬孋	

						Ш	米形官理	垫华 及	い呪怜胆			
	1ml c											
			2									
	雗		-5-6									
	測定簡別		工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を 描いた上での管理が可能な工事をい 、 ************************************	v、 醋 ※地 上 国 傾 が 1 い voolit が 上 の る い は 使 用 す る 基 層 お よ び 表 層 用 混 合物 の 総 使 用 量 が 、 3,000 t 以 上 の場合が 該 当 す る。	小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工権の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当	するものないっ。 ①施工面積で2,000m2以上10,000m2未 尚仕日 *** # # # # # # # # # # # # # # # # #	②使用する 本層 及び衣層用流合物の総使用量が500t以上3,000t未満					
	測定基準			(来)」、「地工を割件搭載当と ザースキャナーを用いた出来形管理要 領(舗装工事編)(案)」または「TS (ノンプリズム方式)を用いた出来形	管理要領(舗装工事編)(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから水まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。			
各値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	$\begin{array}{c c} +40 & +50 \\ -15 & -15 \end{array}$	$\begin{array}{c c} +40 & +50 \\ -15 & -15 \end{array}$								
規権	定値	規模	067	06∓								
	の (X)											
	囲々	中規以以上)6 +l)6 +								
	測定項目		△皇藪奢	厚さあるい は標高較差								
	工種		アスファルト舗装工(下層路盤工)	(面管理の場合)								
校 梅			2									
<u>«</u> — — — — — — — — — — — — — — — — — — —			2									
	領		6 - 競	≣採Ⅱ								
御			27 聚物	룆 H								
	鷹		m +1 K }	工事共風	臛							
	容	章 係格 工 種 測定項目 (X) 注測定值の平均 別 定 基準 準 期 定 箇	章 係 本 校番 工 種 別定項目 本 10個の測定値 の平均(Xi0) (X) (X) 測 定 基 準 測 定 基 準 測 定 所 摘 中規模 小規模 <	章 (X) (X) <th>章 (本) (本)<th>章 節 条 校番 工 種 測定項目 配々の測定値 本面管理の場合 測 定 基 準 測 定 面 所 所 2 6 7 2 7スファルト舗装工 土地積機 小規模 小規模 小規模 小規模 回送 の 工場の(Xio) 1.3 X元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 別 上 以下 以上 以上 以下 以上 以上 以上 北水管理度 (輸業工事編) (案) 1 または「T S 合物の総使用量が、3,000 t 以上の場 (権 無 2 本) 1 大人方式)</th><th> 章 条 校番 エ 種 測定項目 (A) (10個の測定値 *n面管理の場合</th><th>単 節 条 校番 工 種 10種の別定値 (X) 10種の別定値 (X) 1 の種の別定値 (X) 別 定 基 筆 節 定 基 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 原 型の 所 要 所 更 所 更 所 更 所 更 の 上の の 上の</th><th> 4</th><th># 第 章 条 技番 工</th><th> 10年の20年 2 2 2 2 2 2 2 2 2 </th><th> 2</th></th>	章 (本) (本) <th>章 節 条 校番 工 種 測定項目 配々の測定値 本面管理の場合 測 定 基 準 測 定 面 所 所 2 6 7 2 7スファルト舗装工 土地積機 小規模 小規模 小規模 小規模 回送 の 工場の(Xio) 1.3 X元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 別 上 以下 以上 以上 以下 以上 以上 以上 北水管理度 (輸業工事編) (案) 1 または「T S 合物の総使用量が、3,000 t 以上の場 (権 無 2 本) 1 大人方式)</th> <th> 章 条 校番 エ 種 測定項目 (A) (10個の測定値 *n面管理の場合</th> <th>単 節 条 校番 工 種 10種の別定値 (X) 10種の別定値 (X) 1 の種の別定値 (X) 別 定 基 筆 節 定 基 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 原 型の 所 要 所 更 所 更 所 更 所 更 の 上の の 上の</th> <th> 4</th> <th># 第 章 条 技番 工</th> <th> 10年の20年 2 2 2 2 2 2 2 2 2 </th> <th> 2</th>	章 節 条 校番 工 種 測定項目 配々の測定値 本面管理の場合 測 定 基 準 測 定 面 所 所 2 6 7 2 7スファルト舗装工 土地積機 小規模 小規模 小規模 小規模 回送 の 工場の(Xio) 1.3 X元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 別 上 以下 以上 以上 以下 以上 以上 以上 北水管理度 (輸業工事編) (案) 1 または「T S 合物の総使用量が、3,000 t 以上の場 (権 無 2 本) 1 大人方式)	 章 条 校番 エ 種 測定項目 (A) (10個の測定値 *n面管理の場合	単 節 条 校番 工 種 10種の別定値 (X) 10種の別定値 (X) 1 の種の別定値 (X) 別 定 基 筆 節 定 基 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 定 番 筆 節 原 型の 所 要 所 更 所 更 所 更 所 更 の 上の の 上の	4	# 第 章 条 技番 工	10年の20年 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2

_						出水が日廷至十次り流出に
mm		瞅				
単位		梅		3-2-6-7		
-				3-2	alm Yem O.	
				対称なった。	2年7日第3年9日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1日1	上 登 賞 数 2 0 2 0 2 12 2 13 2 13 2 13 2 13 2 13 2
		峞		管理[な工]	00m2 J で表別 t 以	様のるとれた。 以、現然に、とのにごとして、 は、現然に、の。 には、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こので
		緬		はに記り	% 10, 0 1 ★ ↓ ↓ 3, 000	中もでのい 3 表 1 定 2 、 2 と 2 。 現の 1 定 2 、 2 と 2 。 現の 2 施 5 ・ 1 日 1 日 2 の 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
		包		カ 工事と 管理が	面積か 5 基層 が、	合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事とが、中規模以上の工事より規模に小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工業を加速する場合で、次のいずれかに該当場でものので、次のいずれかに該当場では、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(次10)について満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(次10)について満足しなければならない。ただし、一個の測定値の平均値は適用しない。ただし、項をのかずしをはが10個未満の場合は測定値の平均をはは適用しない。
				工事規模の考え方 中規模以上の工: 描いた上での管理	施工品を出する日本の利用を利用する	を を を は を を を を を を を を を を を を を
				規模の 規模以 た上	雑はの後を	該規り施いるも工 用用さのら均ば夕均・当模規工い場の面 す量は割な値な数値
				サーボー はまれる	でい、舗装施工面積が10,000m2以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場	ーが該当する。 ・ 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模にからいものの、確理結 乗を施工管理に反映できる規模の工 種をいい、同一工種の施工が数日連 するものをいう。 ()施工面積で2,000m2以上10,000m2未 適使用する基層及び表層用混合物の 総使用量が500t以上3,000t未満 同さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ ばならない。ともに、10個の測定値 の平均値(X10)について満足しなけれ はならない。ただし、再とり ければならない。ただし、一年との の平均値は適用しない。 かすめ値は適用しない。 かすが値は適用しない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がたがは、 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたらない。 がはたい。 がはたい。 がはたい。 がはたい。 がはたい。 がはたい。 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、
				と発図し、	置る	
		耕		の割った所を対けて対対に対対に対対に対対に対対に対対に対対に対対に対対に対対に対対に対対に対対に	F 9	
		揖		· ヶ所 にこ1 二二二	0m以 。	
		色		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは各車線200m毎に1ヶ所を掘り 起こして測定。ただし、幅は設計図書	原 で あ る き る	
		1/2		:80m :線20 定。	かが	
		展		、 沿海 別名 多り はままま おままま しょうきょう しょうきょう ほうきょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう はんしょう しょうしょう しょう	点によってよっています。	
				関連自営ない	の側側を	
		10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	小規模 以下	-10		
	重	10個の測定値 の平均(X10) :面管理の場合 は測定値の平 均	1m1/	×	ı	
	格			ı	l	
	猫		小規模 以下	-30	-50	
		個々の測定値 (X)	中規模以上	-25	-50	
F		`	⊕ <i>¬</i>	10	'	
		測定項目		70	匷	
ļ		————		重		
		重		業工	1.1	
				アルト舗装工路機工)	粒度調整路盤工	
		Н		スプァ上層路	調響	
-				, , ,	松	
	技			က		
	然			2		
	質			9 業	維装工	
	御			2 登	超日	
		鷹		m H K	工事共	

				出来形管理基準及び規格値
		脷		
単位		権		3-2-6-7
-				
		11-		管なるびょ 壊のみエれ 田米 理工品表以 以、規がみ 思維 国工品表以 以、規がみ 混満 医事以層上 上管複数に 合 信 第を上用の の理の日該 物
		占		が 3000mm 1 2000mm 1
		錮		工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を 描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m2以上め るいは使用量が、3,000 t以上の場 合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結 事と防工管理に反映できる規模の工 事を施工管理に反映できる規模の工 事を施工管理に反映できる規模の工 が多のをいい。同一工種の施工が数日連 続する場合で、次のいずれかに該当 するのをいう。 ②使用する基層及び表層用混合物の 総使用量が500t以上3,000t未満
		钎		# 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
		副		工事規模の考え 中規模の考え 中規模以上の工 中規模以上の工 中 中 中 中 中 中 中 中 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
				工・描いる合合 事果事続す①満②総事中い、い物が小よををする施 使使素が、いりが小よををする施 使使
				・3次元データによる出来形管理にいて「地上型レーザースキャナーを いた出来形管理要領(舗装工事編) をプラインストスーで、 (編装工事編)を用いた出来形管理要 (補装工事編)を用いた出来形管理要 (が表しまり、または「TS (が対リズム方式)を用いた出来形管理要 (編装工事編)を用いた出来形管理要
		#		出ス舗本出ま用)る精りる。 値し 側寸面 「高ゐ。 て+か来キ装格来たい案場度出 に2 全る積 値 評直ら形*工載形はた〔合・来 はゐ。面。当 2 価下求管ナ事型管「出」、計形 計 さ計た 当 寸層ま
		崋		一夕による出来形管理と一ず一カキャナーを 「地上移動体格載型レーボースキャナーを 「地上移動体格載型レーボース・カオス)を用いた出来形管理機 はか方式)を用いた出来形管理機 はかる計測精度・計20場)、20日本 (平面大路の間中では、20日本形管理 直下層の標高値とはです。計20。計20日本形管理 直下層の標高値とはです。計20。計20日本形管理 直下層の標高値とはは計20。 には数数面積が、10日本形管理 を算出する。計200 には計20日本形管理 を算出する。計20日本形管理 を10日本 を10日本
		色		一型管地一編ム装理定測会 測皿 計高(直差 高の十分ダレ理上を)方工をす方に 値が 幅値平 下で 軟目設。に一要が用り式事実る法適 の合 員を面 層算 差標計
		展		3.3 次 と
				1. 3 次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方おいて「地上型レーケスキャナーを 中規模以上の工事とは、管理図等をサンス 「地上型レーサスキャナーを 中規模以上の 1 1、1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
-		型(0.0gc)	小規模 以下	1. お用(ザ領(管づ他度を) 2度 3全度以 4の 5合高さ
		10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均		
	格値	10個 の * 面僧 は測	中規模 以上	∞ -
	規	の測定値 (X)	小規模 以下	- 63
		個々の測 (X)	中規模以上	-54
-		<u> </u>	H 7	
		測定項目		画 な
-				
		顜		
				(スファルト舗装 (上層路盤工) (面管理の場合)
		Н		7スファルト舗装 (上層路盤工) 対度調整路盤工 (面管理の場合)
	校 卷			4
-		⋘ →		t-
-		前		o │ 般舗装工
		神		2一般施工
		鷹		3土木工事共通編

単位:mm		承				
無		梅		3-2-6-7		
		河 定 箇 所		事規模の考え方 P規模以上の工事とは、管理図等を いた上での管理が可能な工事をい	い、舗装施工面積が10,000m2以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場	中が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模に小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続もるの合い。 (1) 第一工程の施工が数日連続のをの合い。 (2) 第一工程の施工が数日連続のをの合い。 (3) 2) 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
		測定基準	T	幅は、延長80m毎に 1 ヶ所の割とし、厚さは、 $1,000$ ㎡に 1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。た	だし、幅は設計図書の測点によらず延い 長80m以下の間隔で測定することがでる きる。	
	有值	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-8 -10	1	
	規格	<i>々の</i> 測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-25 -30	-50 —50	
-		· (国	⊕ ⊃	 	I	
		測定項目		軍	匷	
	日			アスファルト舗装工(上層路盤工)	セメント (石灰) 安定処理工	
	校 海			2		
		⋘		2		
		量		6 - 漿	維装工	
-		御		2 漿	超日	
		鷹		m + +	工事共	

				山米形官理基準及び規格値	
шш :		1mV			
単位		脚		2-9	
		権		3-2-6-7	
<u> </u>		準 漁 定 箇 所		た工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理医等を 描いた上での管理が可能な工事をい し、舗装施工面積が10,000m2以上も のいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t以上の場 の合が該当する。 の合が該当する。 本力規模は小さいものの、管理結 中本り規模は小さいものの、管理結 事をかい、同一工種の施工が数日連 があらのをいう。 10施工面積で2,000m2以上10,000m2未 適使用する基層及び表層用混合物の 総使用量が500t以上3,000t未満 高	
		म		と一般移用家式事業の法理のよう 同名国	
		చ		型管地 編ム装理定測台 測画 計高 直差 高の+ るター理上を(方工をす方) 値位 幅値平 下で 鞍目記。	
		展		1.3次元データによる出来形管理(おいて「地上型レーザースキャナー理(案)」、「地上移動体格載型レーザースキャナーを用いた出来形管理型でインメブリスと方式)を用いた出来形管理型では、カンズリスと方式)を用いた出来形管理を実施する場合、その大型を指した。 (メンズリスと方式)を用いた出来形管理関係(離装工事編)(案)」または「T(2)と出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する場合、適用する。計測は設計幅員の内側を面とし、を手がの点で標高値を算出する。計測以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該所の標高値との差で算出する。 の標高値との差で算出する。計測以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該所の機高値との差で算出する。 の標高値との差で算出する。 の標高値との差で算出する。計測ないり以上とする。 とこの差とする。	
		定値 110) 場合 カ平	小規模 以下		
	格値	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小 以上 以	<u>` </u>	
	規格		小規模 以下	- 6 6 7	
	Ħ,	個々の測定値 (X)	中規模 小 以上 以	1	
		測定項目		<u>同</u> 行 の を に を を に を を に を に を に に を に に に に に に に に に に に に に	
		顜		アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) なた処理工 (面管理の場合)	
_		Н		アスファルト舗 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工 (国管理の場合)	
		技		φ	
		⋘			
		峚		○ 殷鶴滋工	
		神		2 穀植工	
		臛		3土木工事共通編	

_						出水が日本生中人の流出に
単位:mm		華		2-9-		
		11.		3-2-6-7		
		河 定 箇 所		□工事規模の考え方□一規模以上の工事とは、管理図等を図 描いた上での管理が可能な工事をい	隔 1v、舗装施工面積が10,000m2以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合物の総使用量が、3,000 t 以上の場	中が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結 果を施工管理に反映できる規模の工 事をいい、同一工種の施工が数日連 続する場合で、次のいずれかに該当 するものをいう。 ①施工面積で2,000m2以上10,000m2未 満 優伸用する基層及び表層用混合物の 総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ はならないとともに、10個の測定値 の平均値(X10)について満起しなけれ ればならない。ただし、両をのデー 多数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。
		J		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 T 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー を採取して測定。ただし、幅は設計図 描	m以下の間向	
		ے		1 ケリ 1 個の だし、	表80.1 きる。	
		包		コ毎に mgに たった。たった。	ががらば	
				展80m 1,000 イ選項	に ない ない ない	
				幅は、延厚さば、 原さは、 を採取し、	書の測点で測定する	
		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	小規模以下	<i>L</i> —	1	
	. 値	10個の の平 *面管: は測気	中規模以上	- 5	-	
	規格		小規模 以下	-20	-50	
		個々の測定値 (X)	中規模以上	-15	-50	
		測定項目	•	+10	閆	
F						
		重		スファルト舗装工加熱アスファルト		
		Н		アスファル (加熱アン	安定処理工)	
		茶		2		
	然			2		
	領			9 発	維装工	
		御		27 菜	插日	
		孋		m H K	工事共	

_							Д	米形管理	型件 グ	び祝怜旭	•	
: mm		1-1										
単位				<i>L</i> -								
,mi		梅		3-2-6-7								
-		準 漁 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を 描いた上での管理が可能な工事をい	「地上移動体搭載型レー」、、舗装施工面積が10,000m2以上あ一を用いた出来形管理要」るいは使用する基層および表層用混編)(案)」または「TS」合物の総使用量が、3,000 t以上の場ばカ方式)を用いた出来形。合が該当する。	案)」に基 小規模工事とは、中規模以上の工場合、その 事より規模は小さいものの、管理結度・計測密 果を施工管理に反映できる規模の工田来形管理 事をいい、同一工種の施工が数日連出来形管理 事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当	するものをいう。 個々の計測値の規格値には計測精 ①施工面積で2,000m2以上10,000m2未 して土10mmが含まれている。 高・エエ・オーロージューローコン 4.4.3	②使用 9、3 本層及び交層用低音物の全面とし、総使用量が200t以上 9,000t未満る。計測密 (積当たり)	値と当該層	評価する場直下層の標う なまる高		
		丼		る 一 日 × 筆	体出ま用	この神にする。	格合	内出影倒す面	標る。	しささて+か		
		 		による 一ザー 要領	移用家式	事実る法適に相当に用	[の規 かま;	員を面の算投	層の算出	差標計と高厚		
		定		型 空 空 単	当一に 選り (乗り)	装理定測合い工をす方に	- 測値 mmが	指 相 相 由 由 由	直進下る	恵の二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十		
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	I	 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編) 	(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編)(案)」または「TS(ノンプリズムカ式)を用いた出来形	管理要領(舗装工事編)(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その事他本基準に規定する計測精度・計測密 果度を満たす計測方法により出来形管理事を実施する場合に適用する。	2. 個々の計 度として±10	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり) 以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高数差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	2-								
	規	垣	小規模 以下	-45								
	710	の測定値 (X)	· (((((((((((((((((((
		面	中規以以上	-36								
		測定項目		- 厚さあるい は標高較差 								
		上		アスファルト舗装工 (加熱アスファルト	ぞ定処理工) (面管理の場合)							
-				K)	<u>换</u> 。							
		数		∞								
-		₩		2	Amp 1557 c 1							
		======================================		6 ————————————————————————————————————								
-		神		2 一								
		鷹		m + +	工事共産	WE						

						出来形管埋基準及ひ規格値				
Z : mm		脷								
単位		梅		3-2-6-7						
-				3-5	め昆鼻	工装工車当 柱 の 固つ直なの直				
		柜		管理図等な な工事をい	00m2以上3 び表層用? t 以上のサ	中が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続もるものをいう。 ①施工面積で2,000m2以上10,000m2未 適を用事が500t以上3,000未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ びたのないとともに、10個の測定値 がな方はならない。ただし、両との 17 一条数が10個未満の場合は測定値 の平均値は適用しない。 高面舗装等でコアー探取により床 栃面舗装等でコアー探取により床 板等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。				
		鮰		には、当日に	×10,0 ≥ 10,0 3,000	中ででは、22 表の性をできる。 現のき権が、1000mmm 上 10000mmm 100000mm 10000mmm 10000mm 100000mm 10000mm 100000mm 10000mm 10000mm 10000mm 10000mm 10000mm 10000mm 10000mm				
		魠		え <u>方</u> り工事 2 ・管理が	- 面積から 名 基 屋 上 る 基 屋 が、	中が該当する。 小規模工事とは、中 果を施工管理に反映で 素を施工管理に反映で 売るのをいい、同一工種の 一方ものをいう。 一位には、個々の測定 以上の割合で規格値を 以上の割合で規格値を 以上の割合で規格値を がならないとともに、 がすなに適べるない。 たっ がはたいなないとともなに、 が一夕数が10個未満の の平均値は適用しない。 本面舗接等でコアー が第に損傷を与える恐 があるがたいととない。 がはためないととない。 がしたがはなった。 が、かばないととない。 が、かばならないととない。 が、かばならないととない。 が、かばながは、 が、他の方法によるない。 は、他の方法によるとない。 たっ が、他の方法によるとない。 たっ が、他の方法によるに、 をの方法によるに、 をあるが、 が、他の方法によるとない。 をあるが、 をあるが、 が、 は、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が				
		震		草の売 以上の 上での	装施工東用する	5.19項表記し、第3百 す記さ聞な数値 発補費のす工機管、合を積 るが、合いでがは 取装傷方子工機管、守る間間でとX 7.12適 ご等を法				
				工事規模の考え方 中規模以上の工: 描いた上での管理	、 (((((((((((((((((((が小よを全地につきの後、人ばつればりた。 万族が小よを全する 使使厚上なずれてずり 万橋等、該規り施いるも工 用用さのら均ば夕均 一面に他当時ではいます。				
=				幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 T 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー を採取して測定。ただし、幅は設計図 描	屋屋の	合 事集事務すの海回殺 ひはのはテめ コ 敗は				
		#		ro割 割で 幅な調	以下以					
		崋		1 か 1 値の だし、	長80m きる。					
		侙		n 年に) 引に がた。た	がずるがいがられる					
		震		<u>E</u> 版801 1,000 イ湾	になっていること					
				画は、 <u>対</u> 算みは、 を探衷し	事の測点 河河定す					
-		J定値 (X10) O場合 Eの平	小規模 以下	4-						
	歱	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 / 以上	-3	-					
	奉		±mK .	12	25					
	猫	の測定値 (X)	==	I	10					
		個々	中規和以上	6-	-25					
		測定項目		10	찉					
		測定		歐	_					
		重		スファルト舗装工基層工)						
				() ()						
		Н		アスファ/J (基層工)						
ŀ		基		6						
		巛		7						
		超		9 棗	維装工					
		柵		22 殷植工						
	_	鷹	_	m ± ₹	工事共					

				山米が官理基準及び規格値	
mm		翢			
単位		麓		<u>L</u> -9	
		**		3-2-6-7	
		準 漁 定 箇 所		1. 3 次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 おいて「地上型レーザースキャナーを 中規模以上の工事とは、管理図等を 用いた上での管理が可能な工事を (条) 出来形管理要領 (舗装工事業) 描いた上での管理が可能な工事を ザースキャナーを用いた出来形管理要 るいは使用する基層および表層用混 質 (編装工事編) (案) または「TS 合物の終使用量が、3,000 t以上の場 (ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要 るいは使用する基層および表層用混 (メンプリズム方式)を用いた出来形管理要 るいは使用する基層および表層用 (メンプリズム方式)を用いた出来形管理要 るいは使用する基層は、3,000 t以上の場 (エンプリズム方式)を用いた出来所で対象が正確に不多と配「管理に がき出来形管理を実施する場合、その事より規模は小さいものの、管理結 他本基準に規定する評別を決し出来所を対象を配「管理に及映できる規模の」 でき端たす計測を決により出来形管理等ないい。同一工種の施工が数日連 を実施する場合に適用する。 はつまる場合で、次のいずれがに該当 まっちの点で標高値を算出する。計測密 果を配「確定のを以表を 度としてもwmが含まれている。 1. 間に設計幅員の内側を面とし、総度 の標高値との差で算出する。計測密 の標高値との差で算出する。計測密 の標高値との差で算出する。計測密 の様の自提高として評価する場 らは、直下層の規模には計測構 の施工の値には計測構 の施工面積で2,00m2以上10,000m2未 高を表面を表面を表面を 1. 原とする。 2. 個とする。 3. 計測は設計幅員の内側を面とし、総度 かたで第には計測構 の施工の種で変出する。 高速を表面を表面を表面を 高速をで第出する。 5. 厚を表面を 高を表面を 高を表面を 高を表面を 高を表面を 高を表面を 高を表面を 高を をとの差とする。	
		崋		よず領勢いの() 偏縮計に目 現れ の算段 の日 と高厚る一つとう 大渕 よります 格で 内田影 標計 しささい 体に できょう 作に ほる マーズ	
		讯		タン理也を、方にをす方に、値信は、下で、数目設。と、まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	
				元地本、ヤエリ)形にする。の土、はで人名、はと、を下めと デ上形・ナ事ズ舗管規計場・計加・設標配。、の、標層値す 一型管门一緒上装理定測合・限心・計画・計画・計画・計画・計画・計画・計画・計画・	
		展		- I 沿用、ザ領(管づ他度を 2度 5 全度以 4 6 5 合高さいい祭子)(理会本を実 3 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
		10個の測定値 の平均 (X10) :面管理の場合 は測定値の平 均	小規模 以下		
	格値	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 以上		
	規権	の測定値 (X)	小規模 以下	- 52	
		個々の ()	中規模 以上	-50	
		測定項目		<u></u>	
		重		アスファルト舗装工 (基層工) (面管理の場合)	
		Н		7. (基層工) (面管理の (面管理の	
		技		10	
		⋘		L	
		氫		の一般雑装工	
		脚		27 殷植工	
		臛		o 士术工事共通僱	

							Н	米形官理基準及し	/况恰但			
<u>r</u> : mm		脚										
単位		権		3-2-6-7								
ŀ					め昆鼻	2 口指口劃当 4	4 E	1 国の直ナー4	1⊬ √π	㎞		
		占		管理図等を な工事をい	い、舗装施工面積が10,000m2以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合物の総使用量が、3,000t以上の場	合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工籍をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。	o, oooilik iiii 令整。	総使用量が500年以上3,000年末端 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ ばならないとともに、10個の測定値 の平均値(X10)について満足しなけ ればならない。ただし、厚きのデー タ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。		
		椢		は、御口能な	10,000 および ,000 t	、 中もでのいい 現のき猫が トロックログ サード・トロック	A A A A A A A A A A	(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	一茶馬 殴れの とがた	が 来 。 。		
				カ 二事と : 畢が「	積 基 	はさ反工次、、い映種の	78 7 K	メスカルスの を を は で に り だ に り に が に の に が に が ま る が ま る り た り た が り た り た り た り た り た り た り た り	トロイ アング ナタジ	という出がい		
		色		 	他工団 ヨナる 田子る 田子る 田子の 田子の 田子の 田子の	よる 単独性 合い でいる 単は 単口 単位 単口 でいっぱい アンシップ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1500th 1500th 1700fx 1775 1775 1775 1775 1775 1775 1775 177	は、一つ、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の	デ お が り		
		展		工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、 苗いた上での管理が可能	舗装りは使りなりの総値			後使用量が500t以入 (株用量が500t以入 (ロケ) (ロケの) 以上の割合で規格 ばならないととも の平均値 (X10) に ればならない。た かばならない。た かばならない。た がはならない。た	7 一探耶衛田舗渉等に損値	無本 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.		
ŀ				世 中 東 中 東	いる合いる多	合 事果事続すの	雑の)総 以ばのれ夕均。	コ	三 盆 格		
		製		幅は、延長80m年に1ヶ所の割とし、 こ厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを探取して測定。ただし、幅は設計図 1	以下の間隔							
		描		<u>ヶ所</u> (国の割	80m)							
		色		毎に 1 引に 1 1 たた	が必ずる							
				\$80m; 000m	411							
		展		、経事は、は、は、は、とのという。	選点に定する							
L	,			順厚をなける数	書で							
		測定値 1(X10) (の場合 値の平 値の平	小規模 以下	ا 3		Many Farantin Bank						
	• 値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模以上	-2		3mプ ロ7////-/-/- (o)2. 4mm以下 直読式(足付 き) (o)1.75mm以 下						
	規格	定值	小規模 以下	6—	-25							
		個々の測 (X)	中規模以上	<i>L</i> —	-25	1						
Ī		囲		10		却						
		測定項目		世	闡	出						
		重		捕装工								
				77 \ F \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \								
		Н		アスファルト舗装工 (表層工)								
f		校		11								
		⋘		2								
		絙		9 登	維装工							
		神		27 章	福 日							
編の土木工事共通編												

_							出习	そ形質	理基	基準及	び規格	各値	
立: mm		瞅											
単位		攉		3-2-6-7									
		御		3 は、管理図等を 可能な工事をい	10,000m2以上あ さよび表層用混 000 t 以上の場	** たでか成当する。 による一つ、おりでは、中規模以上の工 その事より規模は小さいものの、管理結 関密 果を施工管理に反映できる規模の工 部電 里をかい、同一下籍の帖下 が多り道	/ ボナルがに該当	以上10,000加2未	女 唐 五 徳 市 物 の 000t 未満	t、平坦性の項 来る。			
				力 C事と(理が同	1積が1 基層は が、3,	はない。 以は、 以ば、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	1 ₹ 1 0 1 0	000m2.	文 C 2 3 4 C 1 3 4 C 2 3 4	いたいたいとが出			
		受受		工事規模の考え方 中規模以上の工∄ 描いた上での管理	v、舗装施工面 るv、は使用する 合物の総使用量 へぎ繋ャナマ	ロクク883mm 19 05。 小規模工事と 事より規模は小 果を施工管理に 事をいい、同一	ナド・・ 統する場合で、 するものをいう。	①施工面積で2,000m2以上10,000m2未満 高年田ユッキョンジキョロコストにの	必改吊 9 る 番信総使用量が200t.	維持工事においては、平 目を省略することが出来る。			
		測 定 基 準		1. 3次元データによる出来形管理に おいて「地上型レーザースキャナーを 用いた出来形管理要領(舗装工事編)	(案)」、「地上移動体搭載型レー ザースキャナーを用いた出来形管理要 (額(舗禁工事編)(案)」または「TS	(ノノノリスなカな)を吊いて田米が「 管理要領(舗装工事編)(条)」に基づき田米形管理を実施する場合、その事 し本出業形式規定する計測精度・計測密、用 田本基準に規定する計測精度・計測密、用	なま施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 かての点が趣高値を質出する。計画像	ユンン、、スコーロッヨーショニンコ 度は1点/m2(平面投影面積当たり) 以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	
•	5 値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-2 -3 #	<i>" n74ルメーター</i>)2.4mm以下 荒式(足付	(の)1.75mm以 管 下	2,460	27 110	0.5 /1	1 1120 (21)	4.0	13 VII July 20	
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-17 -20		l							
		測定項目		厚さあるい は標高較差		平坦性							
		工		アスファルト舗装工 (表層工)	(面管理の場合)								
		枝		12									
ŀ		⋘		7									
ŀ		即		6 - 8	舗装工								
		神		2 一 發	超日								
ŀ													

3土木工事共通編

灩

-I				1	шл	/// L /	* 本年及い流行に
単位:㎜		権		3-2-6-8			
		測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた 上での管理が可能な工事をい	い、基層および表層用混合物の総使 2割に測用量が3,000 t以上の場合が該当する。		事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。
		上 上 上		基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線500m毎に1ヶ所を掘り	起こして測定。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に測 定。	ただし、幅は設計図書の測点によらず 延長80m以下の間隔で測定することが できる。	
		展		基準高は3 し、道路中 厚さは各国	超にして過 幅は、第4 研。	ただし、専発を 発表80mV なそろ。)
	値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下		-15 -15		
	規格	の測定値 * (X)	小規模 以下	+ 50	45	-20	
		個々	中規模 以上	±40	-45	-50	
		測定項目		△皇蔌奢	と	閆	
		日	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)				
		等					
					舗装工		
		神	2 棗	揭日			
		鷹		ლ 1 K	千事工		

単位:mm		薩		3-2-6-8							
•		1 定 幽 所			い、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当する。	び 小規模工事とは、中規模以上の工					
		演		工事規模 中規模 いた上で	V、基層 用量が3, る。	# 		an 日本 電子 15年 (15年)			
		測 定 基 準		 3次元データによる出来形管理に おいて「地上型レーザースキャナーを 用いた出来形管理要領 (舗装工事編) 	案)」、「地上移動体搭載型レー ースキャナーを用いた出来形管理要 (舗装工事編)(案)」または「TS	(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」に基事づき出来形管理を実施する場合、その果他本基準に規定する計測精度・計測密事度を満たす計測方法により出来形管理 続を実施する場合に適用する。	. 個々の計測値の規格値には計測精 として±10mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m2 (平面投影面積当たり) 以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値十設計厚さから水まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。	
•	値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	()管づ他度を	2 歴と、	3全度以	4	い心値や監	
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	06 = 06 =	06 = 06 =						
		測定項目		△皇報署	厚さあるい は標高較差						
		工種		半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	(面管理の場合)						
		技		2							
		₩		8							
ŀ		THE STATE OF THE S		o ↑ 般舗装工							
		神		2 撥							
		鷹		m ± 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1 + 1	工事共	温旛					

_						出水が日往至十久りが旧世			
単位:mm		瞅		8-					
洲		権		3-2-6-8					
		定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい	3よび表層用混合物の総使 00 t 以上の場合が該当す	小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をがい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。			
		展		工事規模の考え方 中規模以上の工: いた 上での管理	v.、基層 用量が3,(ろ ₅	小規模 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			
		測定基準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図	rの測点によらず延長80m以下の間隔 測定することができる。				
		定 100) 場合 70年	小規模 以下	幅 —10 傾 り	押り				
	値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小 以上 以	8-	l				
	規格		小規模 以下	-30	-50				
		個々の測定値 (X)	中規模 // 以上	-25	-20				
i		測定項目		を 直	壨				
		工種		半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	粒度調整路盤工				
		林							
		⋘		8					
		塩		6 - 機	維業上				
		神		27 穀楢日					
		鷹		m ± ₹	工事共	/			

εľ							11111	工 坐 十 次 (77011	<u>''-</u>	
位:mm		稇									
単位		権		3-2-6-8							
		測 定 簡 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい	- N.、基層および表層用混合物の総使 要 用量が3,000 t 以上の場合が該当す S A	のでは、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が					
		#		1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)	(案)」、「地上移動体搭載型レー ザースキャナーを用いた出来形管理要 箱(輪荘丁重編)(案)。キャけ「T-S	ス・田家士・編)、末/」・たは、1、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、2、	個々の計測値の規格値には計測精 して土10mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり) 以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから水まる高さとの差とする。	
		描		7による /一ザー 理要領	上移動 2用いた (M)-1	(株) (2年) ない (2年) ない (2年) ない (2年) ない (2年) (2年) (2年) (2年) (2年) (2年) (2年) (2年)	首の規格 ≤含まれ	国員の 国を 国を 国 対 国 技	7層の標準質出す	数据と 温練副の計画が	
		<u>一</u>		元 <u>データ</u> 他上型 1 杯形管理	、 トナー 関 (調)	トラップ (無 大 美 大 美 大 美 大 美 大 乗 な ま な ま な ま な ま な ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	の計測値 E10mmが	は設計 で標高 / m2 (4	は、直 この差で	を補高を下層の面の値を付ける かっぱん かっぱん かっぱん かんりょう	
		阐		 3次元デおいて「地上おいて出来形用いた出来形 	(案) ゲースキッ 領(舗注-	(国) (動) (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型) (型	2. 個々6度として1	3. 計測(全ての点 度は1点/ 以上とする	4. 厚さにの標高値	 厚さる合は、直 高較差平均 	
		側定値 1(X10) の場合 値の平 10	小規模 以下	-10							
	, 値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 以上	8-							
	規格	J定値)	小規模 以下	-63							
		個々の漢 (X,)	中規模/以上	-54							
-		直通目		厚さあるい は標高較差							
-		測定項		厚みばは標品							
		工		半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	()度調整路盤工()面等囲の場合)						
}					松馬 (明	<u> </u>					
ŀ				4							
$\left. \right $		經 經		\$ 1 ±X	### ## 1	1					
ŀ		加		2 6 — — 般		1					
				8 土米							

						山木が自垤を牛及び焼竹旭					
単位:mm		薩		3-2-6-8							
		河 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた 上での管理が可能な工事をい	長 い、 基層および表層用混合物の総使 き 用量が3,000 t 以上の場合が該当する。	小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工業する場合が該当する。コアー採取について 「一経取について 「一経取について」 「一経取について」 「一経取により床」 「一級取により床」 「一級取により床」 「一級取により床」 「一級取により床」 「一級取により床」 「一級取により床」 「一個力法によることが出来る。」					
		通加量	4ml/	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし厚さは、1000㎡に1個の割でコアー採取もしくは掘り起こして測定。た	し、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。						
	s 値	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-8 -10							
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-25 -30	-50 -50						
		測定項目		と	찉						
		工		半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	セメント (石灰) 安 定処理工						
		技		2							
		₩		00	Ame to						
		—————————————————————————————————————		2 6 — — 般	(番) (無) (無)						
•				o 士术工事共通編 cv · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·							
L											

_				Ī				米形官	理基準及	ひ規格	3個	
江: mm		展										
単位		権		3-2-6-8								
		桕			い、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当す	る。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結	る規模の工 工が数日連 					
		捆		は、記録の記録	■ ■ ● ● ●	中や、	まするる。					
		₩.		え方)工事(管理が	び表層t 以上	となべるない。	アストスをディスを表示した。					
		展		莫の考; 以上の での僧	圖	算工事 規模は	L 御 田 1 1 1 1 1 1 1 1 1					
				工事規模の考え方 中規模以上の工: いた上での管理	い、基屋 用量が(の 小規 手より さり	果を施工管理に反映で 事をいい、同一工種の 続する場合が該当する。					
		剰		久元データによる出来形管理に 「地上型レーザースキャナーを 出来形管理要領 (舗装工事編)	(案)」、「地上移動体搭載型レー ザースキャナーを用いた出来形管理要 路(無批丁書信)、金)、キキューの	現(開表上事幡)(来)」または、「13 (ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」に基	うき出来形管理を実施する場合、その 果他本基準に規定する計測精度・計測密 事度を満たす計測方法により出来形管理 総を実施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり)以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	
		掛		よる比 ・ザース :領 (舗	多剰をしてた日	*/ (*/ (*/ (*/ (*/ (*/ (*/ (*/ (*/ (*/ (が ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	規格値まれて	(の) (学) (対) (対) (対) (対) (対)	の標高 出する。	と高厚してされて	
		护		ー 型 で 単 理	「地上利一を用した。	編と業! 人力工,まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	理定測合を打力をする方式に	測値のmが含	拝 高 首 首 日 日 日	直下層 差ぐ算	高の十の数目数 。 名田設 。 発目数 。 発明数 計算	
		演		 3次元データによるいて「地上型レーザートンとは大田来形管理要領 	(な) し、 トスキャナー サイナー	、 当 次 十 中 バ ン プ リ ズ 里 要 領 (舗	s 田米形僧 ス基準に規 さ満たす計 関施する場	個々の計 こして±10r	計測は設 ての点で標 t1点/m2 ことする。	厚さは、 鴨高値との	厚さを標 は、直下層 枚差平均値 での差とす	
		1m1	献,		₩¥#	区。管	づ他度を	27 展	3全度以	4.6 #	ら合高さ	
		10個の測定値 の平均(X10) 面管理の場合 は測定値の平 均	小規模 以下	-10								
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 以上	8-								
	規	の測定値 (X)	小規模 以下	-63								
		(ソの) (国をの)	中規模 以上	-54								
		測定項目		厚さあるい は標高較差								
		種		t舗装工 器工)	ィト (石灰) 安 I.エ	(面管理の場合)						
		Н		半たお (上層	セメント定処理工	(面衛						
		技		9								
		⋘		∞								
		祖		6 - 競	維装上	4						
		神		27 蒙	摇日							
		騭		$\omega + +$	日事‡	製配業						

_				1		ロネル自攻を牛及い枕位に						
単位:mm		瞅		φ								
東		摧		3-2-6-8								
		拒		管理図等を描 stな工事をい	でい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
		細		事は、、が可能が可能	5層用注上の場上の場	より は できる できる できる できる できる できる できる できる できる しょう できる しょう はん						
		魠		考え方この工事の管理	よび表 0 t 以	事は 間回 ない 単い 間回 ない 単い は 日 日 に なった は かん は かく かん かん かん かん かん いい ポンプン・ストング・ストング・ストング・ストング・ストング・ストング・ストング・						
		淨		工事規模の考え方 中規模以上の工: いた 上での管理	い、基層お 用量が3,00 ス	。 事果事続い 徳子に事事がけるような事事をは といる 神子を はらなる 神子の 神子の 神子の 神経 神子の は 発展 は 他の は 神経 は ない ない は は は ない は は ない は ない は ない は ない						
		#		所の割とし、 割でコアーを 幅は設計図書	幅は、地球80m 柱に 1ヶ万の割とし、 電さは、1000㎡に 1 個の割でコアーを 採取して測定。ただし、幅は設計区書 の遡点によらず延長80m以下の間隔で 適定することができる。							
		増		ス <u>1ヶ月</u> 1 個の割 だし、本	\$80m} \$5°							
		魠		.0m毎~ 0m~ E。たが	うず延 ができ							
		演		晶は、延長8 算さは、100 察取して測2	O測点により 間定すること							
		則定値 (X10) の場合 直の平	小規模 以下	7 2-								
	4 値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 以上	- 5	I							
	規格	の測定値 (X)	小規模 以下	-20	-50							
		個々の測 (\mathbf{X})	中規模 以上	-15	-20							
		測定項目		と	嗶							
		重		性舗装工スファルト	安定処理工)							
	Н			半たわみ性舗装工 (加熱アスファ)	安定処理							
		枝		7								
		⋘		8								
		缸		o │ 戲舗装工								
		一		2一般植工								
		鷹		m H K	日事出	河潭						

				1	山木が自任奉牛及い杭伯旭
単位:mm		旛		3-2-6-8	
		測 定 基 準 測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい	(案) 「出上移動体格載型」」 い、「基層およりで表層 11年 20 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
ŀ	ĵ	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	模 小規模 1 以下	<i>L</i> -	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	格値		英 中規模 以上	2-	
	規	の測定値 (X)	真 小規模 以下	-45	
		個々の	中規模以上		
		測定項目		厚さあるい は標高較差	
		五		半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト	安定処理工)
		林		8 新。。	
ŀ		—————————————————————————————————————		∞	
ŀ		恒		6 - 搬	《編 採 工
ŀ		神		2 漿	(相工
ŀ		鷹		m ± ₹	六工事共通編

п				1		山木が自垤峚牛及び焼佰値			
単位:mm		旛		3-2-6-8					
		河 定 基 準 測 定 箇 所			でい、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当す	る。 ・小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を加工事を記して事る。 ・一様でする場合が該当する。 コアー探取について 橋面舗装等でコアー探取により床 防等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。			
					の測点によらず延長80m以下の間隔で 測定することができる。				
	5 値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-3 -4					
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下		-25 -25				
		測定項目		軍	覃				
		条 校番 工 種							
		· 		8 6 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8					
		鷹		の士木工事共通編 20~参加口					

単位:mm		極		3-2-6-8							
		通 定 簂 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい	い、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当す る。	小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。					
		测定基準		 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編) 	(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編)(案)」または「T.S.	(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」に基事づき出来形管理を実施する場合、その果他本基準に規定する計測精度・計測密事度を満たす計測方法により出来形管理。参実施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高的標高を表示層の標度を表示を表示を表示を表示を表示されまる高さとの差とする。	
•	規格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	小規模 中規模 小規模 以下 以上 以下	-25 -3 -4							
	¥	個々の測定値 (X)	中規模 小規 以上 以	-20							
		測定項目		厚さあるい は標高較差							
		工		半たわみ性舗装工 (基層工)	(面管理の場合)						
		技		10							
		⋘		∞							
				6 一 褒							
				3 十 十 一 数							
		₩.			I=II T	, L, 9F					

_ r				1		H/N/// H 5	生卒年及び抗治恒				
単位:mm		蓋		3-2-6-8							
		測 定 箇 所			い、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当する。	が、水規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 株が高いて 株が高いて 大阪について	版等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。				
	測 定 基 準			幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1000㎡毎に1個の割でコアー を採取して測定。ただし、幅は設計図	書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。						
	子 値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-2 -3		3mプ b7/k/-/					
	規格	1 (X) (X)	-25 -25	ı							
		測定項目		声	閆	世 田					
		口種		半たわみ性舗装工 (表層工)							
		枝番		11							
		⋘		_∞							
		鑩			# 装下	i					
-		確									
		Č		○ 土木工事共通編							

							出来	形管理	፟基準及び	規格	直	
位:mm		瞅										
単位		権		3-2-6-8								
		通 定 簡 別		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい	い、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。	<u>- 48%</u>		#付工事においては、 目を省略することが出来る				
		測定基準	T :1/	1. 3 次元データによる出来形管理に おいて「地上型レーザースキャナーを 用いた出来形管理要領 (舗装工事編)	(案)」、「地上移動体搭載型レー ザースキャナーを用いた出来形管理要 領(舗装工事編)(案)」または「TS	管理要領(舗装工事編)(案)」に基準できている。 でき出来形管理を実施する場合、その 関他本基準に規定する計測精度・計測密	度を満たす計測方法により出来形管理 を実施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m2 (平面投影面積当たり) 以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高数半重を 高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	
	格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-2 -3	3mプ υ7 <i>tlvy-y-</i> (σ)2.4mm以下 直読式(足付 き)							
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-17 -20	-							
	測定項目			厚さあるい は標高較差	五 在 在	Í)						
		口種		半たわみ性舗装工 (表層工)	(面管理の場合)							
		枝番		12								
		⋘		8								
		綅		o │ 般舗装工								
		御		2 一般	超日							

臛

3土木工事共通編

_1				1	щ		官理基準及ひ規恰他			
単位:mm		薩		3-2-6-9						
		河 岡 河		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい	い、基層および表層用混合物の総使 L測 用量が3,000 t 以上の場合が該当する。	こらず 小規模工事とは、中規模以上の工ことが 事より規模は小さいものの、管理結果を指定するのの、管理結果を指して	事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー探取について 橋面舗装等でコアー探取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。			
	瀬 定 港			基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線500m毎に1ヶ所を掘り	起こして測定。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に 定。	ただし、幅は設計図書の測点によらず 延長80m以下の間隔で測定することが できる.				
	値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下		-15 -15					
	規格	10 の測定値 ^の (X) *音	小規模 中規 以下 以	+ 20	45	- 20 -				
		個々の測 (X)	中規模 // 以上	0	-45	-50				
		測定項目		☆屋本宝	と	嗶				
	章 節 条 枝番 二 種			排水性舗装工(下層路盤工)						
				1						
				6 9 無	#					
				27 数插工						
		鷹	m ± ₹	3土木工事共通編						

: mm		tel c										
単位		左海		3-2-6-9								
					<u>Лп./ .</u> [1 1 41 1 1 1 1 1 1						
		占		管理図等を指 はな工事をい	混合物の総復 3合が該当す	版 小規模工事とは、中規模以上の工						
		錮		は、飢ご可能	層用沿 上の場	、 中 い で で で が が が が が が が が が が が が が						
		戶		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事を加工管理に反映できる規模の工事を施工管理に反映できる規模の工業を加工管理に反映できる規模の工業を施する場合が該当する。								
		展		工事規模の考え方 中規模以上の工: いた 上での管理	い、基層お。 用量が3,000 る。	で、 小規模工事 事より規模/ 果を施工管事 事をいい、 「 売する場合が						
•		 		1. 3次元データによる出来形管理に、おいて「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)」	(案)」、「地上移動体搭載型レー! ザースキャナーを用いた出来形管理要 領 (舗装工事編)(案) または「T.S.	(インプリスト語) とおいた出来の 管理要領 (舗装工事編) (案)」に基事 うさ出来形管理を実施する場合、その 果 他本基準に規定する計測精度・計測密 事 度を満たす計測方法により出来形管理 総	を実施する場合に適用する。 2.個々の計測値の規格値には計測精 エニュー・ジッグ・ション	° H	3. 計例は於計幅員の内側至面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。	
		幽		よる出 ザース 顔 (舗	動体表で大日	こと 関題 はいる (を) を (す) を (す) を 無り、 は) の 精り、	まる。現格値は	# 40 C	対解的対象を対象を関する	の標高 Hする。	とは呼のとなる場とする場合	
		色		一タによる出来形型型レーザースキャ管理要領 (舗装工	岩 格 格 (新 (新	より 大工をすり 公式事実の法 (()に	に適用調価の対象を		ずる で (本国力) (本国力	重下層(きぐ算出	当 数 は は は は は は は は は は は は は	
		展		3 次元ゲー イ「地上型 た田米形値	・ヤー	1 大場と 一次	- る場合:		15.7 元 17.1 元 18.2 元 18.3 元 19.3 元	らは、 [との差	17 17 17 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	
				1.3巻 おいて 用いたH	(条) ゲースキ 舗装	(人) 管づ他度、(人) 理き本を記さまた。(大) 関出基満:	を ※ ※ を が が が が が が が が が が が が が	皮とり、	3. () () () () () () () () () () () () ()	4.厚さの標高値	50 高 高 で で を が が が が が が が が が が が が が が が が が	
		訓定値 (X10) の場合 直の平	小規模 以下	$+50 \\ -15$	$+50 \\ -15$							
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 以上	+40 -15	+40 -15							
	規	则定值)	小規模 以下	06 +	06 =							
		個々の測定値 (X)	中規模、以上	06 =	06 =							
		測定項目		△吳鄟賽	厚さあるい は標高較差							
		種		((4							
		Н		排水性舗装工(下層路盤工)	(面管理の場合)							
		技		2								
		⋘		6								
		旨		6 — 級	維装工	1						
		御		2 發	7 一 般 插 工							
帰ち土木工事共通編												

_ [1	Щ	1米形官理基準及び規格値				
単位:mm		権		3-2-6-9						
		定簡別) 7考え方 (上の工事は、管理図等を描 の管理が可能な工事をい	隔い、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当する。	小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。コアー採取について 橋面舗接等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。				
		阐		工事規模の考え方 中規模以上の工 いた上での管理	い、基層 用量が3, る。	事果事続コ 版は小よををすて橋等、歩り施いる一面に他機規工い場保舗担の				
		測定基準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図	の測点によらず延長80m以下の間隔側定することができる。					
•		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	(本) (本) (本) (本	-10	軸 ド -					
	! 格 値		1. 本規模 下 以上	-30 -8	20					
	規	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-25 -	50					
•		測定項目	<u> </u>	せ	曋					
	5 条 枝番 工 種			排水性舗装工 (上層路盤工)	粒度調整路盤工					
				3						
				5 - 数	無批口					
		神		2一般施工9一般舗装工						
		鷹		○ 土木工事共通確 ○ 十条本二 ○ 十条本二 ○ 十条本						

_							·//>	至 十 人 し	770111111		
単位:mm		墙		3-2-6-9							
		測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい	- N. 基層および表層用混合物の総使要 用量が3,000 t 以上の場合が該当する A.	の 小規模工事とは、中規模以上の工 基 事より規模は小さいものの、管理結 の 果を施工管理に反映できる規模の工 密 事をいい、同一工種の施工が数日連 理続する場合が該当する。	精	· 敬(园	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
		测定基準		 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) 	(案)」、「地上移動体搭載型レー ザースキャナーを用いた出来形管理要 領(舗地工工事編)(案)、キャけ「T-S	の、HRダーキMA(オメ)・スペス・1、5000 (ソングリズム方式)を用いた出来を管理要領(舗装工事編)(条)」に基事づき出来形管理を実施する場合、その単位本基準に規定する計測構度・計測密 事度を満たす計測方法により出来形管理 総を増加する場合に渡出れる	ェスルフランスにであれている。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として土10mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m2 (平面投影面積当たり) 以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	
	子 値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-8 -10							
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-54 -63							
		測定項目		厚さあるい は標高較差							
		口種		排水性舗装工 (上層路盤工)	粒度調整路盤工(面管理の場合)						
		技		4							
		₩		o o							
		知		○ 殷舗装H							
		確		8 十十3 2 3 4 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4		大浬 嘿					

e l				T	-	ロネル自互を牛及い杭伯恒				
単位:mm		薩		3-2-6-9						
	河 定 66 所			工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい	長 い、基層および表層用混合物の総使 き 用量が3,000 t 以上の場合が該当す る。	小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結 果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 橋面舗装等でコアー採取により床 他の方法によることが出来る。 は、他の方法によることが出来る。				
		連 店 基			し、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。					
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-8 -10						
	規	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-25 -30	-50 -50					
		測定項目		や	찉					
	校番			排水性舗装工(上層路盤工)	セメント (石灰) 安定処理工					
				2						
		₩ ₩		6 - 1 - 3	4m2 J1V · ¹					
		神 經		2 / 設施 H ○ / 戲舗						
		鷹		3土木工事共通編2一般施工						

_									至十人〇	77011		
単位:mm		蓋		3-2-6-9								
		通 定 簂 所			い、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当す	規模工事とは、中規模以上の工り規模は小さいものの、管理結	の果を施工管理に反映できる規模の工 怒事をいい、同一工種の施工が数日連 里続する場合が該当する。					
		測定基準		1. 3次元データによる出来形管理に 工事 おいて「地上型レーザースキャナーを 中財用いた出来形管理要領 (舗装工事編) いた	(案)」、「地上移動体搭載型レー \v, ザースキャナーを用いた出来形管理要 用量 (は) (は)	頃 (舗袋上事編) (案)」または「TS る。 (ノンブリズム方式)を用いた出来形 小 管理要領 (舗装工事編) (案)」に基事よ	ひぎ出来形管理を実施する場合、その 果を他本基準に規定する計測精度・計測密 事を度を満たす計測方法により出来形管理 続すを実施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり)以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから水まる高さとの差とする。	
•	. 格 値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平均 均	1模 中規模 小規模 下 以上 以下	-8 -10								
	規	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-54 -63								
		測定項目		厚さあるい は標高較差								
		工種		H H	セメント (石灰) 安 定処理工	(面管理の場合)						
		技		9								
		₩		6								
		·····································		2 6 般		-						
		懂		57 - 東								

- [ī					
単位:mm		旛		3-2-6-9					
		定 所		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、「工事規模の考え方 厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを「中規模以上の工事は、管理図等を描 探取して測定。ただし、幅は設計図書いた上での管理が可能な工事をい	び表層用混合物の総使 以上の場合が該当す	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
•		狥		工事規模の考え 中規模以上の いた上での管	い、基層およ 用量が3,000 t る。	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			
		東		<u>ヶ所の割とし、</u> の割でコアーを 、幅は設計図書	m以下の間隔で 。				
		三		<u>延長80m毎に1</u> は、1000㎡に1個 ノブ測定。ただし	気によらず延長80 Fることができる。				
		■ 47 ☆ 1			<u>の</u> 選定す				
	子 値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-5 -7					
	規格	々の測定値 (X)	真 小規模 以下	-20	-20				
		(国々の)	中規模以上	-15	-50				
		測定項目		と	暺				
	校番 工 種			T. 7711					
				排水性舗装(加熱アス	安定処理工)				
				2					
		≪ K		6					
		經		の一般舗装工					
				27 1 8 施工					
		藻		3土木工事共通編					

							エエー人し	****	<u> </u>		
	瀬		6-9-								
			3-5 等を描 事をい	を終まずま	で 単 単 単 単 単 単 単 単 単 単 単 単 単 単 単 単 一 単 一						
	刑		管理図∉ 能な工事	混合物(場合が	- 規模以 - 000、、 できる規模 2 施工が約						
			. 方 工事は、 理が可	び表層用 以上の	たな、 サンス サンス アンス アンス 下						
	展		模の考え 莫以上の : での管	編表よう 33,000 t	横工事 規模は 江管理 (い、同- 場合が認						
			7 工事規 P 中規相 いた J	- い、 海 田 ら ら。	※基)を理事果事続したよををす期り施いる	Her	.Ka	THEM!			
	 		出来形管理に スキャナーを 舗装工事編)	な搭載型レー 出来形管理 または「TS	田いた出来那 (案)」に基 る場合、その る場合、その 情度・計測部 り 出来形管理	直には計測料 でいる。	測全面とし、 する。計測浴 面積当たり)	高値と当該層 5。	て評価する場 + 直下層の格 から求まる 言		
	描		メたよる! ノーザー、 里要領 ((上移動体 2用いた[(案)」、	50世紀 20年期 20年期 20年期 20年期 20年期 20年間 40年	直 の規格 ざ 含 ま れ で	国員の内/ 直を算出 P面投影[ド層の標i ∵算出する	效滞とし、 国標高な、 役計厚な、		
	通		3 次元デー、 7 「地上型 2 出来形管 !	」、 「	/ プリメム/ フメム/ 日来形倫琳/ 日来形僧理 日本形/ 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	a を の 計測 f ア ナ 10mm カ	+測は設計 り点で標高(L 点/m2 (³ :する。	厚さは、直 ⁻ 5値との差で	享さを標高軸 直下層の1 き平均値+記)差とする。		
	1-1 AT 6.1	描	1. 5 おい7 用いカ	(米) 無(米) (米) (米) (米) (米) (米) (米) (米) (米) (米)) 管づ他度をノ理き本を実い更と支流が	2. 個度と1	8全度以.ては上	4. の標	5.合巵と、は数と、3.20である。		
値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均		2-								
規格	测定值 X)	小規模 以下	-45								
	個々の ()	中規模 以上	-36								
	測定項目		厚さあるい は標高較差								
	重		771	(工) (の場合)							
	Н		排水性舗 (加熱ア	安定処理 (面管理							
	枝番		8								
	₩		6								\dashv
	· 										_
	鷹										_
	格	章 係 体番 工 種 別定項目 個々の測定値の平 別 定 基 準 職 定 基 準 所 <	章 係 体番 工 種 別定項目 本面管理の場合 別定値の平均(X10) 別 定 基 準 簡 所 摘 中規模 小規模 <	章 係 校番 工 種 上	章 節 条 枝番 工 種 測定項目 Mac の測定値 (X) Mac 中規模 (A) Mac 中規模 (B) Mac 中規模 (B) Mac 中規模 (B) Mac 財 (B) Mac 中規模 (B) Mac 中規模 (B) Mac 中規模 (B) Mac 中規模 (B) Mac 中 (B) Mac h (B)	章 節 条 枝番 工 種 割定項目 10個の割定値 の平均(Xi0) 割 定 基 準 額 定 面管 所 所 額 定 面管 所 簡 所 通	章 節 条 校番 工 種 測定項目 10個の測定値 (T)	特		2 6 9 8 財外係議報工 1 1 1 1 1 1 1 1 1	

=						山木が自垤峚牛及い杭伯恒					
単位:mm		插		3-2-6-9							
		通 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた 上での管理が可能な工事をい	でい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当す	の。。。。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					
		測定基準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを 採取して測定。ただし、幅は設計図書	の測点によらず延長80m以下の間隔で 測定することができる。						
	, 値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-3 -4							
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-9 -15	-25 -25						
		測定項目	ш.	世	壨						
		口種		排水性舗装工(基層工)							
		条 枝		6 6							
	經			6 -	舗装上	-1					
		加		27 载档工							
		臛		3土木工事共通編							

[: mm		脷								
単位		梅		3-2-6-9						
		測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい い、基層および表層用混合物の総使 田書法のの、「のはくだまし	用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 る。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結 果を施工管理に反映できる規模の工 事をいい、同一工種の施工が数日連 続する場合が該当する。					
		測定基準		 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」、「地上移動体格戴型レーデーをよった。」。 	サースキャナーを用いた出来が管理要用 質(舗装工事編)(案)」または「TS る (ノングリズム方式)を用いた出来形 管理要領(舗装工事編)(案)」に基事 づき出来形管理を実施する場合、その 果 他本基準に規定する計測精度・計瀏密事 度を満たす計測方法により出来形管理 続	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり)以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	
			1-1/	1. (無いて (条) (条)	ナ領(管づ他度を一)(理き本を実入館、勇出者滞施	22. 極とし	8 会 型 で は は れ に と	4.0高端	S 合 高 、 数 が の の の の の の の の の の の の の り の り の り の	
	値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-3						
	規格	個々の測定値 ,	中規模 小規模 以 以上 以下	-20 -25						
		測定項目		厚さあるい は標高較差						
		工種		排水性舗装工(基層工)	(国管理の場合)					
		梅		10 3457	<u> </u>					
		徐 		ი -						
		岩		の一般舗は	紫 日					
		神中		27一般插下	Н					
		孋		m + + +	事共風驛					

=				T	шл	<i>///</i>	5年及び死行 但		
単位:mm		薩		3-2-6-9					
		測 定 箇 所			隔 1v、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当する。	小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連	続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項 目を省略することが出来る。		
		測定基準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1000㎡毎に1個の割でコアー を採取して測定。ただし、幅は設計図	書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。				
	値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-2 -3		3mプ ロフルメーター (o) 2. 4mm以下 直読式(足付 き)			
	規格	11 個々の測定値 *in (X) ほり	中規模 小規模 中 以上 以下 以	6-	-25 -25	3元(0 (o) 			
		測定項目		と	哩	平垣性			
		工		排水性舗装工(表層工)					
		技		11					
		⋘		6					
		·····································		の一般維ੱ					
		ლ		3土木工事共通編21一般施工					

翢 単位 -2 - 6 - 6褈 が、小規模工事とは、中規模以上の工 車事より規模は小さいものの、管理結 の果を施工管理に反映できる規模の工 含事をいい、同一工種の施工が数日連 理続する場合が該当する。 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当す 平坦性の項 币 維持工事においては、 目を省略することが出来る。 緬 定 工事規模の考え 緎 用る。 1. 3次元データによる出来形管理に 口当ないて「地上型レーザースキャナーを 日いた出来形管理要領 (舗装工事編) いい (案) 」、「地上移動体搭載型レーい、(案)」、「地上移動体搭載型レーい、ザースキャナーを用いた出来形管理要 用い質 (舗装工事編) (案)」または「TS る。(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基事でき出来形管理を実施する場合、その 果っさと出来形管理を実施する場合、その 果を満たす計測方法により出来形管理 簿を満たす計測方法により出来形管理 総を満たす計測方法により出来形管理 総を表準にある場合に適用する。 こして評価する場覧な+直下層の標質なから来まる高 々の計測値の規格値には計測精 て±4mmが含まれている。 阏 圃 . 計測は設計幅員の内側全面とし、ての点で標高値を算出する。計測程は1点/m2(平面投影面積当たり)上とする。 当該属 عن ا 無 の標高値 4. 厚さは、直下層の標高 の標高値との差で算出する。 基 宣掣う 標高較差 } 層の目標 | 値+設計 | 定 とする。 はかず一番子の一番を 鰄 は、直一 較差平5 との差3 · (※ * 画し 世 27 度 3全度以 ら合南さ 小規模以下 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 4mm以下 (σ)1.75mm以 下 10個の測定値 (o)2.4mm以T 直読式(足付き) 松 中規模 逥 海* \vec{z} 3117 夲 小規模 以下 々の測定値 .20 型 \times 中規模 以上 -17画 厚さあるい は標高較差 Ш 牲 定項目 뙤 緎 1 種 (面管理の場合) 非水性舗装 (表層工) Н 梅 12 枝 * 6 點 ら一般舗装工 計 27 榖烟工 繿 3土木工事共通編

						шж	ルロロ	生基年及び祝竹旭						
単位:mm		嫡		3-2-6-10										
		所		管理図等を描 きな工事をい	合物の総使 合が該当す	模以上の工の、管理結め、 の、管理結め、 の規模の工	エが数日連	受により のものもの が 田米る。 ない は は は は の は は は は は は は は は は は は は は						
		緬		は、同能の影響	暑用混らる場	中もでまる。	重の脂 る。	ストーグ はない はんしょう はんしょく はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ						
		闬		シカ シエ事 ぎ 理 が	9 工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を抽 り、た上での管理が可能な工事をい い、基層および素層用混合物の総使 同量が3,000 t以上の場合が該当す る。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結 果を施工管理に反映できる規模の工 事をが、同一工種の施工が数日連 総する場合が該当する。 「所面舗装等でコアー採取により床 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。									
		灵		:の考 <i>;</i> 以上の での質										
		**		工事規模 中規模] いた上*	い、基層 用量が3 る。	手が指する事業を選出を選出を選出を		u						
į		#		基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の割口で割定。 で割定。 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所掘り W	所測定。 気によらず	トることが								
		म		毎に1	- 1 ケj - 0 渕 g	通定。	0							
				長40m 長200m	30m毎以計図書	冒層の	H S							
		氘		片側延片側延-	定。 施長8 は被	1 1 1	記し適り							
		須		基準高はJ で測定。 厚さは、J	起こして過幅は、圧倒を対してある。	<u> </u>	※歩道舗装に適用する。							
	,值	測定値の平均	中規模以上	Ι	-10	-15	1							
	規格	定値	小規模 以下		-30	-45		_						
		個々の測定値 (X)	中規模 小 以上 」	±50	t < 15cm	t ≧ 15cm	-100							
		測定項目		△皇東奢	* <u> </u>		嗶							
		種												
		Н		透水性舗装工(路盤工)										
		枝番		1										
		⋘		10										
		領		ら一般舗装工										
		御		27										
		鷹		m H K	工事共	浬孋								
•	_	_				_								

E
• •
単位

εΓ								~ // b	垤莶华 及	רוייונע.			
. mm		承		C									
単位		椞		3-2-6-10									
					1-1 (. 1 !!= . :							
		6 所		事は、管理図等を指 が可能な工事をレ	い、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する。	び 小規模工事とは、中規模以上の工 財事より規模は小さいものの、管理結 の果を施工管理に反映できる規模の工	「種の施工が数日連する。 する。						
		定		ネカ りエ∄ 普種	は、は、非人は、	といれているという。							
		演			1 1-1.	が規模工事 事より規模は 果を施工管理	事をいい、	Men	w-	Differ			
		接		ケ元データによる出来形管理に 「地上型レーザースキャナーを 出来形管理要領 (舗装工事編)	多動体搭載型レー Jいた出来形管理要 察) - または「T.S.	ノンプリズム方式)を用いた出来形 理要領(舗装工事編)(案)」に基 さ出来形管理を実施する場合、その	計測精度・計測窓 により出来形管理用する。	個々の計測値の規格値には計測精 して土10mmが含まれている。	(の内側全面とし、 算出する。計測密 投影面積当たり)	厚さは、直下層の標高値と当該層 高値との差で算出する。	5として評価する場 5高さ+直下層の標 5厚さから求まる高	κ _ο	
		運		1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)	(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編)(案) または「TS	(ノンプリズム方式) 管理要領(舗装工事編 込き出来形管理を実施	他本基準に規定する計測精度・計測密 事度を満たす計測方法により出来形管理 総を満たす計測方法により出来形管理 総を実施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の 度として±10mmが含	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり) 以上とする。	4. 厚さは、直下層 の標高値との差で算	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	※歩道舗装に適用する。	
	格値	測定値の平均	中規模以上	+50 -10	+50 -15	+50 -10	+50 -15						
	規権	の測定値 (X)	小規模 以下	0 <i>L</i> — 06 +	06∓	0 <i>L</i> — 06 +	7 = 00 = 00						
		個々の測 (X)	中規模以上	t < 15cm	t ≧ 15cm	t < 15cm	t ≧ 15cm						
		測定項目		口早来月	> 巨 + +	いをみるり	は標高較差						
		工		透水性舗装工(路盤工)	(面管理の場合)								
ŀ		枝		2 透	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								
		巛		10									
		與		9 發	維装工								
-		脚		21 聚									
		鷹		m H K	工事共	画鷹							

						木が自垤基竿及び祝怡旭				
単位:mm		摘		3-2-6-10						
		簡所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた 上での管理が可能な工事をい	い、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t以上の場合が該当する。	小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床橋面舗装等でコアー採取により床板の等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。				
		通		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、 いた上での管理が可	い、基層および 用量が3,000 t.	小規模工事と 事より規模は小 果を施工管理に 動する場合が該 が一 が 面 一 が 一 報 取 に つ で が 等 に 損 機 巻 や は、他 の 力 法 に た か の 力 法 に				
		測 定 基 準		幅は、片側延長80m毎に1ヶ所の割で 測定。 厚さは、片側延長500m毎に1ヶ所コ	アーを探取して測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず 延長80m以下の間隔で測定することが	できる。 ※歩道舗装に適用する。				
	格値	測定値の平均	中規模以上	£—	_					
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	6—	-25					
		測定項目		を重	豐中					
		工		透水性舗装工 (表層工)						
		枝番		3						
	≪			10						
		章 ——— 第		○ 穀舗装 H						
		艦		3土木工事共通編2一般施工						
Į				<u> </u>						

							ļ	出来	形管理	里基準及	び規格値	直
単位:mm		華		3-2-6-10								
		測症會所		. 工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をい	- 1、、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t以上の場合が該当する	る。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結	果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連	for	Va.	V 2		
		測定基準		1. 3次元データによる出来形管理に おいて「地上型レーザースキャナーを 用いた出来形管理要領 (舗装工事編)	(案)」、「地上移動体搭載型レー い ザースキャナーを用いた出来形管理要 用 (額 (舗珠エ重道) / 条)、キャは「T・S ス	頃(開殺工事編)(米/)または・1.3 (ノンプリズム方式)を用いた出来形質理要領(舗装工事編)(衆) 1.4	プミ出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密	度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり) ロトレナス	のエこう。。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高数差では下層の標高数差でのままる高さをの差とする。
	. 値	測定値の平均	中規模以上	-3								
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-20								
		測定項目		厚さあるい は標高較差								

種

Н

枝番

**

經

ተ

簅

(面管理の場合)

9一般舗装工

2一般插工

3土木工事共通編

透水性舗装工(表層工)

_						
単位:mm		薩		3-2-6-11		
		渔 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた しずの祭理が可能が正すかい	・	ずの規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
		测定基準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、「厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを 校町・ア៕で・セジュー値に勢到の割	はなって紹介。たたっ、福は終日は自の測点によらず延長80m以下の間隔で、 関定することができる。	
	値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	2-	1	
	規格	個々の測定値 * (X)	中規模 小規模 F 以上 以下	-15 -20	-50 -50	
		測定項目		車	哩	
		甲		グースアスファルト 舗装工	(加熱アスファルト 安定処理工)	
		技		П		
		晉		11	× 4EF 11W 1	1
		神		2 - 增	(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)(本本)	1
		鷹		m + +	七十	〈周喋

							ЩЯ	いり日す	里	小 况怕	旭	
単位:mm		旛		3-2-6-11								
		測 定 簂 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた上での管理が可能な工事をい		る。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結	果を施工管理に反映できる規模の工事を心い、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。					
		測定基準		次に 一次 一次 日本 日本 一年 大田	(案)」、「地上移動体搭載型レー ザースキャナーを用いた出来形管理要 (ななサーチョン・カン・デーの	頃 (舗装工事編) (条)」まだは 1.3 (ノンプリズム方式) を用いた出来形 管理要領 (舗装工事編) (案)」に基	グき出来形管理を実施する場合、その 異他本基準に規定する計測精度・計測略 事度を満たす計測方法により出来形管理 移実施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の間高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	
	格値	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	L- G-								
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-36 -45								
		測定項目		厚さあるい は標高較差								
		口種		グースアスファルト 舗装工	(加熱アスファルト 安定処理工)	(面管理の場合)						
		技		2								
		₩		111								
		知		6 6 2		-1						
ŀ				3 十 十 ※ ※ 一 ※								

≡I					шл	ル日任至午	人のが旧世		
単位:mm		薩		3-2-6-11					
		測 定 簂 所		、工事規模の考え方 を 中規模以上の工事は、管理図等を描 書いた トでの管理が可能や工事をい	第でい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当す	る。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結 果を施工管理に反映できる規模の工 事をいい、同一工種の施工が数日連 続する場合が該当する。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。		
		通応・基・		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1000m%に1個の割でコアーを 校形して測定・ただし 幅は設計図書	スペポース (Text) (
			敏,,		の選点に選定する	1			
	値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-3 -4		_			
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	912	-25 -25	1			
		測定項目		と	聖				
		事		-スアスファルト きエ	(基層工)				
				グース 舗装工	育)				
				က					
		⋘		11					
		迴		9 - 4	徐舗 装 F	4			
		柵		25 一章	極工				
		臛		3土木工事共通編					

_						<u>H</u>	出米形	官埋	基準及び 規	R 格他		
単位:mm		蓋要		3-2-6-11								
•		垣		±π	v、 基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当する。	小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を心に、 同一工種の施工が数日連事をいい、同一工種の施工が数日連						
		緬		は、、『語な	1五海の場で	中もでいまたと	100					
		色		考え方 Lの工事 管理が可	;よび表層 10 t 以上0	事では、 は小みで、 猫に反果	が該当す					
		演		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を いた上での管理が可能な工事をい	い、基層お 用量が3,00 る。	小規模工事より規模工事より規模 果を施工領事をいい、	続する場合が該当する					
•		剰		N 49	(案)」、「地上移動体搭載型レー」 ザースキャナーを用いた出来形管理要 領(舗装工事編)(案)」または「TS	(ノンブリスム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編) (案)」に基 事づき出来形管理を実施する場合、その 果他本基準に規定する計道籍度・計道察 事	田米形衛理》	個々の計測値の規格値には計測精 して土4mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。	直下層の標高値と当該層 差で算出する。	5.厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高さも可用を可能を発送する。またの差とする。	
		増		による比 ーザーメ 要領 (舗	:移動体 用いた出 (条)」は	大 事 事 新 が 落 学 音	法により 歯用する	の規格値 まれてv	員の内便を算出す 医機能 とう 一般	層の標高 第出する	港として 瀬高 お + 計 厚 な か	
		定		レ型管を タン理		ム装理定方工をする	(利 (力 ()	測値が合	指便) 插油)	直進し	高の十名較目設。	
		展		1. 3次元データによる出来形管理(おいて「地上型レーザースキャナー>用いた出来形管理要領(舗装工事編)	(案)」、 デースキャナ 質 (舗装工事	ノングリメ 理要領 (舗 み 田米形管 本 基準に	を満たす計 実施する場	2. 個々の計 度として±4m	. 計測は設 ての点で標 は1点/m2 上とする。	4. 厚さは、直下層の標高/ の標高値との差で算出する。	. 厚さを標 は、直下層 較差平均値 との差とす	
		定値 X10) 場合 の平	小規模 以下	-4 田 お田) 护 窟,	() かんを	一度を	2 逝	○ 全度以	46	ら合巵と	
	. 値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 7 以上	-3								
	規格	の測定値 (X)	小規模 以下	-25								
		個々の ()	中規模以上	-20								
		測定項目		厚さあるい は標高較差								
		顜		スファルト	(基層工) (面管理の場合)							
		Н		グースア _. 舗装エ	(基層工)							
		技		4								
ŀ		₩		11								
		紜		6 - 競	舗装工							
		肿		2 菜	超							
		鷹		m ± +	二事 共!	画鷹						

⊑				1	шж	/// [主空午	X U M	, 1 LI IL	<u>-</u>
単位:mm		離		3-2-6-11						
		測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた 上での管理が可能な工事をい	マの間隔 い、基層および表層用混合物の総使 用量が3,000 t 以上の場合が該当す	る。 小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結	果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が教日連続する場合が該当する。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により 床版 等に 指 係 か 占 シ み み か の か ろ 場 合	よればをキャイションとう。後には、他の方法によることが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。
		測定基準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1000㎡毎に1個の割でコアー を採取して測定。ただし、幅は設計図	書の測点によらず延長80m以下で測定することができる。					
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-2 -3	1	3m7° μ7.μλ-μ- (σ) 2. 4mm以下	直読式(足付き) き) (σ)1.75mm以 下	-		
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	6- 2-	-25 -25		I			
		測定項目		せる	理		平坦在			
		刊 世		グースアスファルト 舗装工	(表層工)					
		校 梅		7. 律						
		≪		11						
		極			舗装玉	-1				
		詗			20 载掲日					
		鷹			日事士	4. 酒 孋				

— [
単位:mm		極		3-2-6-11							
					1-11 11-1	1 4-0					
		后 箇 所		工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描 いた 上での管理が可能な工事をい	い、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する。 る。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結里を断工等組に反映できる措施の工	#をいい、 神をいい、 続する場合が該当する。 維持工事においては、 ギャッ・ を	と有略する「どが日米る。				
		戸		模の 類以_ での	層 8 模 規 下 税 関 工 模 領	場の場合は	6				
				·事規 中規権 ・た.上	、量。小よを基が 親り権	るからない。	<u>물</u> 때				
		測 定 基 準		1. 3次元データによる出来形管理に「工 おいて「地上型レーザースキャナーを」「用いた出来形管理要領 (舗装工事編)」い	(案)」、「地上移動体搭載型レート、 ザースキャナーを用いた出来形管理要 用 額 (舗装工事編)(案)」または「TS る。 (ノンプリズム方式)を用いた出来形 イ 管理要領 (舗装工事編)を用いた出来形 イ	は常に記される計測精度・計測な 構作な計測方法により出来形管理 施する場合に適用する。 ロ・の計画はの由めは12は当当		3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり)以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	
		4 AT	±mk	1次用		/他度を 。	77 톤	3全度以	46	ら合南さ	
	子 値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-2 -3	3mプ ロ7 <i>th</i> ナー (σ)2.4mm以下 直読式(足付 き) (σ)1.75mm以 下						
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下		l						
		測定項目		厚さあるい は標高較差	平坦性						
		顜		アスファルト	(表層工) (面管理の場合)						
		Н		グース. 舗装工	(表層工)						
		拔		9							
		₩		11							
		絕		9 一發	維業日						
		肿		2 —	福日						
		臛		m ±1 €	工事共通編						

⊑ [I			7日 生卒年及び祝行 恒
単位:mm		権		3-2-6-12			
		準適定簡別		事規模の考え方 P規模とは、1層あたりの施工面積 2,000㎡以上とする。	小規模とは メファルト 米満あるい	満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定	ればならないとともに、10個の測定 値の平均値 (X10) について満足しな ければならない。 ただし、 厚さの データ数が10個未満の場合は測定値 の平均値は適用しない。 コア一採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。
		題 辺 解		基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線500m毎に1ヶ所を掘り起	にして測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に測定。ただし、幅は設計図書アの割に測定。ただし、幅は設計図書アの測点によらず延長80m以下の間隔では	測定することができる。	
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	_	-15	_	
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	±40 ±50	-45	-50	
		測定項目		基準高▽	厚さ	□	
		軍		コンクリート舗装工(下層路盤工)			
		技		П			
		⋘		12			
		短		6 一	維装工		
		神		27 聚			
		鷹		m ±	工事共	渾孋	

_						出来	来形管	理基準及	び規格	S値	
単位:mm		蓋		3-2-6-12							
		通 定 働 所 蓋			小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が500 も未満あるいは施工面積が2,000㎡未						
		測定基準		1. 3次元データによる出来形管理に 工事おいて「地上型レーザースキャナーを 中用いた出来形管理要領 (舗装工事編) が2	(案)」、「地上移動体搭載型レー ザースキャナーを用いた出来形管理要 アン領 (舗装工事編)(案) または「TS 15	(ノンプリズム方式)を用いた出来形満。 管理要領(舗装工事編)(案)」に基 づき出来形管理を実施する場合、その 他本基準に規定する計測精度・計測密 度を満たす計測方法により出来形管理 を実施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり) 以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。	
	値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$						
	規格	個々の測定値 ::	中規模 小規模 以上 以下	06 + 06 +	06 = 06 =						
		測定項目	п		厚さあるい は標高較差						
•		工		コンクリート舗装工(下層路盤工)	(面管理の場合)						
		技		23							
		經		3 12 Z	4mm 41 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						
•		神		8 8	福工 無						

臛

3土木工事共通編

						1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
単位:mm		施展		3-2-6-12		
		測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。	小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が200 t未満あるいは施工面積が2,000㎡未	満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのプータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
		測定基準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘 り起こして測定。ただし、幅は設計図	書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。	
	格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	8-	1	
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-25 -30	-50	
		測定項目		軍	壨	
		口種		コンクリート舗装工(粒度調整路盤工)		
		枝番		8		
		₩		12	Amp to	
		·····································		2 6 ————————————————————————————————————	福	
}		鷹			工事 共	
Ĺ						

工: mm		瞅		27							
単位		權		3-2-6-12							
		河 定 箇 所			小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が500 七未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。						
		出 華		1. 3次元データによる出来形管理に おいて「地上型レーザースキャナーを 用いた出来形管理要領(舗装工事編);	(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要、領 (舗装工事編)(案)」または「TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形容無理には、ター、カーボコーでの(株式工事に)(を)。) に サール	『世安頃(舗装工事編)(参)」に巻づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	個々の計測値の規格値には計測精 して土10mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。	直下層の標高値と当該層 差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高数率均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	
		御		 3次元ゲー おいて「地上型 用いた出来形管 	(案)」、「サ ザースキャナー 領(舗装工事編 (ノングリス等	『	2. 個々の計測 度として±10mm	3. 計測は設計 全ての点で標高 度は1点/m2 (以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高(の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高 合は、直下層の 高較差平均値+ さとの差とする	
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平均 均	中規模 小規模 以上 以下	8-							
	規	々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-55 -66							
•		測定項目個	<u>+</u> 3	厚さあるい は標高較差							
		重		コンクリート舗装工(粒度調整路盤工)	(面管理の場合)						
		校 梅		4	· <u>'</u>						
		⋘		12							
		短		6 - 褒	維装工						
		一		2 築							
		臛		m ±1 ⊀	工事共通	E E					

					ш,	トル自吐を牛及し	7961010			
単位:mm		薩		3-2-6-12						
		測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。	小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未	満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、 10 個の測定値 の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデー がばならない。ただし、厚さのデー タ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。			
		測 定 基 準		幅は、延長80m毎に 1 ヶ所の割とし、厚さは、 $1,000$ ㎡に 1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。た	だし、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。					
	格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	8-	I					
	規相	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-25 -30	09-					
		測定項目		マ 直	뷀					
		工		コンクリート舗装工 (セメント (石灰・	瀝青)安定処理工)					
		技		2						
		₩		12						
		前		6 一 級 維 装 工						
				3土木工事共通編の1一般施工						
Į										

単位:mm		薩		3-2-6-12		
		測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。	がよ,000m火上とり、35 火規模とは、表層及び基層の加熱ア スフルト混合物の総使用量が500 t 米満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。	
		測定基準		ダニ おんだん おんぱん おおい おおまり おままれ おまま おまま おまま おまま おまま おまま かんきょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう し	AV. C. L. X. D. E L. A S B B G M M A L A A A A Y D L A S B D G M A A A A Y D A A D A D A D A D A D A D A	
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	8-		
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-5566		
		測定項目		厚さあるい は標高較差		
		工種		コンクリート舗装工(セメント(石灰・	(百) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	
		技		9		
		₩		12		
		神 程		2 般 般 般	X 個 口 	
-		鷹			· 工事共通編 	
L				1		

_[ш л	· ///		***		·//	ייי	竹门但	
単位:mm		薩		3-2-6-12										
		測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積	は設計図 が2,000㎡以上とする。	下の間隔 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が200 t	米満あるいは瓶工面積が2,000㎡米 藩	厚さは、個々の測定値が10個に9個	以上の割合で規格値を満足しなければなったいアナギに、10個の単定値	でながで、「「ここ」、これでは、これが、これが、 (10) について語してなったが、 はい、 はい これが、 はい これが、 これが、 これが、 これが、 これが、 これが、 これが、 これが、	げんなならない。 たたし、 早さのデータ数が10個未満の場合は測定値	の半均値は適用しない。 	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。	
		測定基準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー	を探取して測定。ただし、幅	書の測点によらず延長80m以で測定することができる。								
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平均 均	中規模 小規模 以上 以下	-3		I								
	規	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-9 -12		-25								
		測定項目		とし		嗶								
		工		コンクリート舗装工	(アスファルト中間	()								
		技		2										
		⋘		12										
						無 採	H —							
		[編]		8 H				編						_
L														

							山木	形官坦	基準及び	况恰1	<u> </u>	
単位:mm		極		3-2-6-12								
•		10			小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が200 t未満あるいは施工面積が2,000㎡未							
					小規模とは、表 スファルト混合 未満あるいは施 #	(HJ) o						
		測定基準		 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編) 	(案)」、「地上移動体搭載型レー ザースキャナーを用いた出来形管理要 領(舗装工事編)(案)」または「TS	、イノノンススガス)を用が、に日米がで置で田要領(維装工事舗)(米)」に基づき田寮(維護工事権)(米)」に基づき出来形管理を実施する場合、その名を非舗に由たする事業権・計画家	西本毎キに死たうの目が引交に対する 度を満たす計測方法により出来形管理 を実施する場合に適用する。	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから水まる高さとの差とする。	
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-3								
	規	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-20								
		測定項目		厚さあるい は標高較差								
		口種		コンクリート舗装工 (アスファルト中間	層) (面管理の場合)							
		校		8								
		德 		6 12 — 般	無採口							
-		神		2 一 發								
		鷹		m ± ₹	工事共	関に関						

⊨ا							1
単位:mm		薩		3-2-6-12			
		測 定 箇 所		事規模の考え方 n規模とは、1層あたりの施工面積 2,000㎡以上とする。	所の割 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 縁から スファルト混合物の総使用量が200 t お、ス 未満あるいは施工面積が2,000㎡未	厚さ管 満。 心付近 厚さは、個々の測定値が10個に9 ベルに 個以上の割合で規格値を満足しなけ ヶ所以 ればならないとともに、10個の測定 打設後 値の平均値 (X10) について満足しな 測定すければならない。 ただし、厚さの 1点によ データ数が10個未満の場合は測定値 ごするこ の平均値は適用しない。 維持工事においては、平坦性の項 用を省略することが出来る。	5中心線
		通加品		厚さは各車線の中心付近で型枠据付後 各車線500m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3ヶ所以上	測定、幅は、延長80m毎に1ヶ で測定。平坦性は各車線毎に版 1mの線上、全延長とする。な	リップフォーム工法の場合は、厚さ管 満 理に関し、打設前に各車線の中心付近 で各車線200m毎に水次はレベルに 個 より1測線当たり横断方向に3ヶ所以 れ 上路盤の基準高を測定し、測定打設後 値 に各車線200m毎に両側の版端を測定すけ る。ただし、幅は設計図書の測点によず らず延長80m以下の間隔で測定するこの とができる。	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。
	格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平均 均	中規模 小規模 以上 以下	-3.5	I	コンクリート の硬化後 3mプロフィル メーターによ り機械舗設の 場合 (σ)2.4mm以下 人力舗設の場 合(σ)3mm以下	±2
	規	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-10	-25	1:	11
		測定項目		と	閆	平 苗 在	目地段差
		正		コンクリート舗装工(コンクリート舗装			
		技		6			
		⋘		12			
		類		9 棗	維業工		
		肿		27 聚	超日		
		鷹		m H ⊀	二 事 共		

							4 年至 年 及	ויזעליט.		
単位:mm		薩		3-2-6-12						
		渔 定 圇 所		17 4/71	 → 規模とは、表層及び基層の加熱ア ▼ スファルト混合物の総使用量が500 t S 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 6 満。 監 構作工事においては、平坦性の項 空 目を省略することが出来る。 	増	-154F	180	山波 海沢 中回	张
		測 定 基 準		 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) 	(案)」、「地上移動体搭載型レー ザースキャナーを用いた出来形管理要ス 領 (舗装工事編)(案)」または「TS 未 (ノンブリズム方式)を用いた出来形 満 管理要領 (舗装工事編)(案)」に基 づき出来形管理を実施する場合、その 他本基準に規定する計測構度・計測密目 をを満たす計測方法により出来形管理 をを満たする。	を未処りる物口に適加りる。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として土4mが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m2 (平面投影面積当たり) 以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値十設計厚さから求まる高さとの差とする。	隣接する各目地に対して、道路中心線 及び端部で測定。
	格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	[中規模 小規模 以上 以下	-3.5	コンクリート の硬化後 3m² u74ル/-ター により機械舗 設の場合 (a)2.4mm以下 人力舗設の場 人力舗設の場					+2
	規	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-22	l					
		測定項目		厚さあるい は標高較差	平田					目地段差
		口種		コンクリート舗装工(コンクリート舗装	70					
		楼		10						
		₩		12						
ļ		道		多 築	維 茶 I					
-		神		27 菜						
		臛		$\omega + +$	工事共順編					

– I				1	шж	N) 6 5	E 至年及び风俗 恒
単位:mm		薩		3-2-6-12			
		測 定 基 準 測 定 箇 所		基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割と 工事規模の考え方し、道路中心線及び端部で測定。厚さ 中規模とは、1 層あたりの施工面積は、 久 車線500m毎に1ヶ所を掘り起 が2,000㎡以上とする。	して測定。幅は、延長80m毎に1ヶ 小規模とは、表層及び基層の加熱アの割に測定。ただし、幅は設計図書 スファルト混合物の総使用量が200t割点によらず延長80m以下の間隔で 未満あるいは施工面積が2,000㎡未	満。	ればならないとともに、10個の測定 値の平均値 (X10) について満足し なければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値 の平均値は適用しない。
		10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	<u> </u>	-15 $\overline{\beta}$	<u> </u>	
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	±40 ±50	-45	-50	
		測定項目		上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上	厚さ	閆	
		工		コンクリート舗装工(転圧コンクリート	版工) 下層路盤工		
		技		11			
		⋘		12			
		超			維業工		
		神		2 聚			
		臛		m +1 K	工事共	漕赈	

単位:mm		薩		3-2-6-12									
-		渔 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2、000㎡以上とする。	小規模とは、表層及び基層の加熱 アスファルト混合物の総使用量が200 七未満あるいは施工面積が2,000㎡未	。 							
		測定基準		N 241		(ノンプリズム方式)を用いた出来形 満 管理要領 (舗装工事編) (案)」に基 づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計劃方法により出来形管理	を実施する場合に適用する。	度として土10mmが含まれている。	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m2 (平面投影面積当たり) 以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値+設計厚さから水まる高さとの発生との発とする。この場合、基準高の評価は省略する。		
=	格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	(文字) (本) (大) (本) (大) (大) (大) () +40 +50 -15 -15	$\begin{pmatrix} +40 & +50 \\ -15 & -15 \end{pmatrix}$								
	規	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	06 = 06 =	06 = 06 =								
		測定項目		△皇蔌賽	厚さあるい は標高較差								
		口種		コンクリート舗装工(転圧コンクリート	Ы	(面管理の場合)							
		技		12									
-		徑 傑		5 12 ~ %	# 操 H								
}		加		2 6 — 8									
-		鷹		m H Κ	日事共	浬嘿							

					<u> </u>	THE TENTO WITH IT
単位:mm		薩		3-2-6-12		
		定會所		工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。	小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未	未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未満。
		阆		工事規模の考え 中規模とは、 が2,000㎡以上 3	小規模とV メファルト 未満あるv	米満 個れ値ながに 個別 個別 個別 個別 過過 過過 過過 ないばのけり のろうない ないない かっかん はん ないかい はん ないがい ない はん ない ない はん はい ない はい まな 値ながいいい
		報		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図	長80m以下の間隔きる。	
		巡		t、延長80m毎に らは、各車線200r ほして測定。た)測点によらず延 J定することができ	
	植	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	章 (型) (型) (型)	<u>書</u> ―	
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-25 -30	—50	
		測定項目		せ	闡	
		軍		(ンクリート舗装工) 転圧コンクリート	版工) 粒度調整路盤工	
		被		13 == (克然_	
		₩		12		
		塩		6 - 一般	維装工	Н
		神		2 袋	超上	
		鷹		m ± Κ	工事共	米

(面管型の第一) (面										10 E 2	E至午及U	יו ם וישעי	<u> </u>	
10個の別で値	単位:mm				3-2-6-12									
章 節 条 枝番 工 種 類 格 値 本の調定値 *面をの測定値 *面をの測定値 *面を関係 *面を関しまり(転圧コンクリート舗装工 厚きあるい 以下 以上 以上 以下 以上 以上 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上			通 明		出来形管理に 工事規模の考え方 スキャナーを 中規模とは、1層あたりの施工面積 浦装工事編) が2,000㎡以上とする。	なお型レー──小規模とは、表層及び基層の加熱 出来形管理要「アスファルト混合物の総使用量が200 またけ「TS」+ 未満あるいけ栃工面種が2000㎡+	3. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	5場合、その 晴度・計測密 8.日本形発電	7 日米が自用	直には計測精 いる。	即全面とし、 する。 計測密 面積当たり)	高値と当該層	て評価する場 + 直下層の標 いら求まる高	
章 節 条 枝番 工 種 類 格 値 本の調定値 *面をの測定値 *面をの測定値 *面を関係 *面を関しまり(転圧コンクリート舗装工 厚きあるい 以下 以上 以上 以下 以上 以上 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上 以下 以上			熏		 3次元データによるL おいて「地上型レーザーン 用いた出来形管理要領((案)」、「地上移動体 ザースキャナーを用いた上 領(舗装丁事鑑)(案)」	マ、!!!**********************************	がき出来形管理を実施する 他本基準に規定する計測# 曲を描き上記過十半7 - 1	及ど滴にす計測力法によりを実施する場合に適用する	2.個々の計測値の規格(度として±10mmが含まれて	3. 計測は設計幅員の内値全ての点で標高値を第出す度は1点/m2(平面投影日以上とする。	4. 厚さは、直下層の標晶 の標高値との差で算出する	5. 厚さを標高較差として合は、直下層の目標高さ-高較差平均値+設計厚とさととの差とかる。	
章		,	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平均 均	中規模 以上										
章 条 大番 工 12 14 コンクリート舗装工 13 14 14 14 14 14 15 14 14 16 15 14 17 14 14 17 14 14 17 14 14 18 14 14 17 14 14 18 14 14 19 14 14 10 14 14 10 14 14 10 14 14 10 14 14 10 14 14 11 14 14 12 14 14 12 14 14 14 15 14 15 14 14 16 14 14 17 14 14 18 14 14 17 14 14 18 14 14 18 14 14 19 14 14 14 10 14 14 14 10 14 <th></th> <th></th> <th>*</th> <th></th> <th>-55</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th>			*		-55									
章 名 12 A 14 コンクリート 14 コンクリート 版工 版工 版本 上 版本 版本 版本 上 (面管理の場合) (面管理の場合)			測定項目		厚さあるい は標高較差									
章					1	版工) 粒度調整路盤工	(面管理の場合)							
章 の一般施工 節 の一般舗装工	ļ				14									
草 20 一 級 福 工	-		巛		12									
	ļ		· 				1							
M	-													

						山木が自垤坐牛及い杭市但			
単位:mm		薩		3-2-6-12					
		通 定 簂 所		事規模の考え方 P規模とは、1層あたりの施工面積 2,000㎡以上とする。	ず小規模とは、表層及び基層の加熱ア 3 スファルト混合物の総使用量が200 t 未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未	本にある 5 v v v v v v v v v v v v v v v v v v			
		測 定 基 準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー を採取もしくは、掘り起こして測定。	ただし、幅は設計図書の測点によらず 小 延長80m以下の間隔で測定することが ス できる。	° 7 0			
	5 値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	8-	_				
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-25 -30	-50				
		測定項目		と	岬				
		軍		コンクリート舗装工(転圧コンクリート	版工) セメント (石灰・瀝 青) 安定処理工				
		技		: 15					
		經 無		6 12 — ₩	維	4			
		神		2 (·			
		孋		50 土木工事共通編					

卌

繿

27 榖樋工

3土木工事共通編

_						1 不 心 目 吐 圣 牛 久					
単位:mm		旛		3-2-6-12							
		渔 定 簂 所		工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。	小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が5,000㎡未	満。 厚さは、個々の測定値が10個に9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなけなければならない。ただし、厚さのデーク数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。				
		測定基準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー を採取して測定。ただし、幅は設計図	書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。						
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	£—	_						
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-9 -12	-25						
		測定項目		マ 直	壨						
		工		コンクリート舗装工(転圧コンクリート	- 中間層						
		枝番		17							
		⋘		12							
		絕			維業工						
				8 日 3 日 4 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5		· ##1 (uig					
		藻		3土木工事共通編							

						ш:	术形官	埋基準及	ひ規作	旭	
単位:mm		権		3-2-6-12							
		絕			小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満						
		色		え方 1層あた :とする	表層及(かり) をおり を とり を とり を とり を とり とん						
				工事規模 <i>の</i> 考え方 中規模とは、1層 が2,000㎡以上とす	小規模とは、、メソテルト混みがあるいは、未満あるいは、	oft.					
		東			「地上移動体搭載型レー」 ・一を用いた出来形管理要 ン ・編)(案)」または「TSラ ・、 ケナゴ)を用いた 出来形 ジャナゴ	編) (系) 」 に基 (条) 」 に基 値する場合、その 計測精度・計測密 により出来形管理 引する。	個々の計測値の規格値には計測精 して±4mmが含まれている。	の内側全面とし、 算出する。計測密 投影面積当たり)	の標高値と当該層 1する。	として評価する場 島な+直下層の標 厚さから状まる高	
) 刑		汝汜 「地上 出来形	(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」または「TS(ハンプリズトオポ)を用いた出来形	管理要の(舗装工場編)である「日本」 管理要の(舗装工事編)に基った日本の含出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	2.個々の計測値の対 度として土4mmが含ま	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり)以上とする。	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差地均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	
-	格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-3							
	規権	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-20							
•		測定項目	工 二	厚さあるい は標高較差							
		日		:ンクリート舗装工(転圧コンクリート	版工) アスファルト中間層 (五巻曲の44全)						
-		校		18 = 1	ガア						
ļ		⋘		12							
		紐		6 — 般	舗装工						
		神		27 一發	超 H						
		鷹		m ±	工事共通	自儒					

							O 7701A	<u>''-</u>			
単位:mm		華		3-2-6-12							
		測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。	小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未	き 満。 厚さは、個々の測定値が10個に9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X10) について満足しなけなければならない。ただし、厚さのデーク数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場合	は、他の万法によることが出米る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。			
		測定基準		厚さは、各車線の中心付近で型枠据付 工事規模の考え方 後各車線200m毎に水糸又はレベルに 中規模とは、1層あたりの施工面積 より1測線当たり横断方向に3ヶ所以 が2,000㎡以上とする。	上測定、幅は、延長80m毎に1ヶ所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。ただ	し、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。	隣接する各目地に対して、道路中心線 及び端部で測定。				
	格値	10個の測定値 の平均 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-4.5	_	転圧コンク リートの硬化 後、3mプロ フィルメー ターにより (a)2.4mm以 下。	+2				
	規権	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-15	-35	I	+1				
		測定項目		厚さ	壨	本 祖	目地段差				
		工		コンクリート舗装工(転圧コンクリート	版工)						
		枝番		19							
		⋘		12							
		鎖		6 一 般	維装工						
		和一		2 磤	福日						
		臛		3土木工事共通編							

翢 単位 -2-6-12褈 を 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 要 スファルト混合物の総使用量が500 t S 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。 币 緬 定 工事規模の考 緎 1. 3次元データによる出来形管理に おいて「地上型レーザースキャナーや 中 用いた出来形管理要領 (舗装工事編) が2 (案)」、「地上移動体搭載型レー 小 ザースキャナーを用いた出来形管理要 スプ ザースキャナーを用いた出来形管理要 スプ で (舗装工事編) (案)」または「TS 未済 (ノンプリズム方式)を用いた出来形 ・管理要領 (舗装工事編) (案)」に基 づき出来形管理を実施する場合、その 権 他本基準に規定する計測精度・計測密 目 度を満たす計測方法により出来形管理 を実施する場合に適用する。 : して評価する場 記さ+直下層の標 買さから氷まる高 ・計測は設計幅員の内側全面とし、 ての点で標高値を算出する。計測密 は1点/m2(平面投影面積当たり) 上とする。 個々の計測値の規格値には計測精 してエ4mmが含まれている。 逥 当該属 道路中心 کل 無 4. 厚さは、直下層の標高値 の標高値との差で算出する。 隣接する各目地に対して、 及び端部で測定。 5. 厚さを標高較差とし合は、直下層の目標高さ高較差平均値+設計厚ささととさいが差とする。 基 定 緎 ら合高さ、は 敬と 3全度以 27 度 小規模以下 *面管理の場合 は測定値の平 後、3mプ ロフル メーターにより (の)2.4mm以下 10個の測定値 リートの硬化 の平均 (X10) -4.5 コンク 松 中規模 画 \vec{z} +2 夲 小規模 以下 々の測定値 型 (X)-32 中規模以上 画 厚さあるい は標高較差 靯 Ш 定項目 地段差 型 黨 1 種 一卜舗装 \equiv (面管理の場合) (転圧コンク Н 枝番 20 12 * 經 ら一般舗装工 卌 27 榖樋工 繿 3土木工事共通編

単位:mm		施殿		3-2-6-13				3-2-6-13		
		運 定 會 所			小苑段とは、玄眉及い番眉の加款/ スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 **********************************	高。 厚さは、個々の測定値が10個に9 個以上の割合で規格値を満足しなけ	ればならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。 ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	m		
		測 定 基 準		基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割と 工事規模の考え方し、道路中心線及び端部で測定。厚さ 中規模とは、1層あたりの施工面積は、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起 が2,000㎡以上とする。ナンデルでは、 エロのエッチロの はない はいい ま ロエがず ローキン	っしく阅た。幅は、延安80m毎に1ケ 所の割に測定。			幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘	り起こして遡定。	
-	5 値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-	-15	-		8-1	I	
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	±40 ±50	-45	-50		-25 -30	-50	
		測定項目		△≌東署	マー重	壨		世	聖	
		日		薄層カラー舗装工 (下層路盤工)				薄層カラー舗装工	(上層路盤工) 粒度調整路盤工	
		林		1				2		
		⋘		13				13		
}		海		6 凝					般舗 装下	1
	に を は を は を は を は を は を は を は を は を は を を は を を を を を を を を を を を を を							ドニ 章 1	v vacci inte	
	帰の土木工事共通編							m +1	木工事业	/ 児 権

εΓ														
単位:mm		蓋		3-2-6-13				3-2-6-13			3-2-6-13			
		測 定 簂 所		工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。		満。 厚さは、個々の測定値が10個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 $(X 10)$ について満足しなければならない。 ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合							
		河 店 基 準		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1000㎡に1個の割でコアーを 採取もしくは掘り起こして測定。				幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー を採取して測定。			幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー を採取して測定。			
	格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	8—	_			5	_		-3	I		
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-25 -30	-50			-15 -20	09-		9	-25		
		測定項目		軍され	壨			厚さ	閆		を	閏中		
		口種		Н	セメント (石灰) 安 定処理工			薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト	安定処理工)		薄層カラー舗装工(基層工)			
		枝番		3				4			2			
		⋘		13				13			13			
		髱		6 -	舗装工			9 整	維業工		9 嶷	維装工		
		祵		2 發	類日			27一概極工			27 發播日			
	編の土木工事共通編							m H K	工事共	河潭	3土木工事共通編			

								不 炒百坯坐干及	- ,,,,,,,	· ''-	
単位:mm		権		3-2-6-14					3-2-6-14		
		河 定 圖 所		工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2.000㎡以上とする。	小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面稽が2,000㎡未	満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で相格値を満足したけれ	ばならないとともに、10個の測定値の平均値 (X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。				
		通 记 基		基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線500m毎に1ヶ所を掘	り起こして測定。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に測 定。				幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。		
	子 値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	中規模 小規模 以上 以下	-	-15	-				_	
	規格	測定値()	中規模 小規模 以上 以下	±40 ±50	-45	- 50			-25 -30	09-	
		測定項目		△單載署	を重	閆			世	閆	
		口		ブロック舗装工(下層路燃工)					ブロック舗装工(上層路盤工)	粒度調整路盤工	
		校番		1					2		
		⋘		14					14		
		羰		· · · ·	維装工				9 發	維装工	
		ー		2 一 褒	超日				2 發	超日	
		廬		∞ H K	工事共	漸產			m ± ₹	工事共	

⊑Γ								1			I		1
単位:mm		薩		3-2-6-14				3-2-6-14			3-2-6-14		
		測 定 箇 所		工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。	小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未	満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなけれればならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合				No.		
		通 定 基 俸		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー を採取もしくは掘り起こして測定。				幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー を採取して測定。			幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー を採取して測定。		
	格値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平均 均	中規模 小規模 以上 以下	8-	I			5	_		-3	I	
	規格	個々の測定値 (X)	中規模 小規模 以上 以下	-25 -30	-50			-15 -20	09-		9	-25	
		測定項目		重	暳			声	閆		と	舋	
		工		ブロック舗装工(上層路盤工)	セメント (石灰) 安定処理工			ブロック舗装工 (加熱アスファルト	安定処理工)		ブロック舗装工 (基層工)		
		枝番		3				4			2		
Ī		⋘		14				14			14		
ľ		題		8 一 8	維装工			9 聚	舗装工		9 巖	舗装工	
ľ		肿		2 巖	超日			2 登	超日		27 罄	超日	
		鷹		e 4 K	工事共			m H K	工事共		m H K	工事共	
_													

E							-14712		1 22 0	ア及作	<u>''-</u>			1
車位: mm	趣	6–15			6–16						6-17			
	異	3-2-6-15			3-2-6-16						3-2-6-17			
	測 定 箇 所	9 —		現舗装 "		ı ļ	***						હ્ય —	A A A A M M M M M M M M M M M M M
	測定基準	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準 高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその	中心とする。 延長40m未満の場合は、2ヶ所/施工 箇所とする。	断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。	各層毎1ヶ所/1施工箇所						厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその	中心とする。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、 延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工	箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	
格値	平均の測定値 (X10)	-2	_		-50	-100	該当工種	– 25	-100	該当工種	6-	– 25	-100	3m ⁷ ¹⁰⁷ ¹⁰⁷ ¹⁰⁷ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰ ¹⁰
猫	個々の測定値 (X)	L—	-25		'	-	該	-	ı	該		-	1	I
	測定項目	+U	W		幅 w	延長L	厚さ t	幅 w	延長L	厚さ t	t t	W	長 L	田
	测 测定	世	哩			路鐵工	l l		# 松工	Tí .	重	嗶	当	⅓
		路面切削工			舗装打換え工						オーバーレイH			
	枝番													
	«₩ ri			16						17				
	節 6一般舗装工				9 聚	維装工					6一般舗装工			
	幸 21級権工				20 骸種日					2一般植工				
	編の土木工事共通編			周鷹	m ± ₹	工事共	浬 嬺				m +1 K	二事 共		

						出来形	管理基	基準及	び規札	各値		
単位:mm	瀬	3-2-7-2					3-2-7-3					
	測 定 箇 所	9			*		— بق		.	≱	*	
	測 定 基 準	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測 定。	厚さは中心線及び端部で測定。				施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、 延長40m (50m) 以下のものは 1 施工箇所につき	2ヶ所。 厚さは中心線及び端部で測定。				
	規格 値	720	—50	-100	-200		+20	-50	-100	-200		
	测定項目	☆ 単 選	施工厚さ t	幅ww	延 長 L		ま 第 点 ▽	置換厚さt	w 풸	近長 正		
		路床安定処理工					置換工					
	枝番											
	₩	7										
	絙	四難					7					
	肿	27 豪					27 整					
	灩	m ± ₹	工事共	浬臛			m ± ₹	工事共	温牖			

E						ш <i>ж</i> и Т								
m1	カスタ	3-2-7-4				3-2-7-5					3-2-7-6			
	測 定 箇 所	9 0	(G)	w.(L)		٠ ين	→ D				ب ب ب		- ∌	
	瀬 定 基 準 施工延長10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。 w. (L) は施工延長40mにつき 1 ケ 所、80m以下のものは1 施工箇所につき3 箇所。 (L) はセンターライン及び表裏法肩で行う。						測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。				施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして	測定。		
	規格値	特記仕様書に明示	- 500	-300	- 200	+ 50	-50	-100	-200		-50	-100	-200	
	測定項目	△遍薪舞	法 長 0	天 端 幅 w	天端延長	☆ 単 乗	t か 画	m m	T		施工庫水 t	M	近 長 L	
	工種	表層安定処理工(サンドマット海上)			·	パイルネットエ					サンドマット日			
	枝番													
	桊					ro					ω			
	節	m ~ 地鑑改良工					7 地鑑改良工				7 地鑑改良工			
	章	マ 一 般 施 工					20 载档日				27			
	響	m +1 K H	事共通			m ± Κ	千事士	通孋			m ± ₹	工事共	周孋	

単位: 皿	3-2-7-7 3-2-7-8				шжи	3-2-7-9		O 791 11		
瀬 定 簂 所	 	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *			h h h k k k k k k k k k k k k k k k k k			M	7	C. L. G. L.
測 定 基 準	100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。1ヶ所に4 本測定。	ただし、ペーパードレーンの杭徭は対 象外とする。	全本数	全本数計器管理にかえることができる。		100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。 1ヶ所に4本測定。			全本数 L=0,-0,	0.14改良体先端深度 0.24改良端天端深度
規格値	+100	設計值以上	設計值以上	I		-50	D/4以内	設計值以上	設計值以上	
測定項目	位置・間隔w	杭 径 D	打込長さり	サンドドレーン、袋詰 式サンドドレーン、サ ンドコンパクションパ イルの砂投入量		△豐東箕	位置・間隔w	杭径D	深度工	
工	バーチカルドレーン工(サンドドレーン工)	(ペーペードレーン 日) (※間 以中ンドドレー	ン工) 統国め改良工	(キンドコンパケッコ ンパイル上)		固結工 (粉体噴射撹拌工)	(高圧噴射撹拌工) (スラリー撹拌工) (生石灰パイル工)			
枝番										
≪	2		∞			6				
短	2 異難	改良工				7 異鍵	改良工			
畑	2 発	福日				27 登	超日			
鷹	m ± ₹	工事共	八浬赈			m + 1 + 1	工事共	浬쀑		

Е				l .			5年及い死行 II 	_	l .			
単位: 計	3-2-10-5			3-2-10-5			3-2-10-5		3-2-10-5			
通 沿 館 平				ζ,	Ĥ	$\sqrt{\mathbf{x}^2 + \mathbf{y}^2}$		<u>_</u> <u> </u>		3	NIBI NIBI NIBI NIBI NIBI NIBI NIBI NIBI	
測 定 賭 燁	基準高は施工延長40m (測点間隔25m の場合は20m) につき1ヶ所。延長40m (叉注50m) 以下のものは、1 施工	箇所につき2ヶ所。		全数			施工延長40m (測点間隔35mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	1 施工箇所毎	施工延長50mにつき1ヶ所。 延長50m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
規格値	+100	設計値以上		設計深さ以上	100		-100	-200	-50	-100	-100	
测定項目	△ 単 乗	根入長		削孔深さの	配置誤差d		张 板	延長 L ₁ L ₂	五 第 基 基	天端幅w	法 長 0	
二	第纫工	(鋼矢板)		土留・仮締切工 (アンカーエ)			士留・仮締切工 (連節ブロック張り 工)		士留・仮締切工 (締切盛土)			
枝番	1			2			က		4			
⋘	rC			ರ			ഥ		ರ			
朔	10	01 夜輟 口		10 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	Н		01仮設工		0			
御	27 紫	22 歲福工		21 蒙	超日		2一般施工		20 最插			
鷹	m ± ₹	工事共		m ±	工事共		3土木工事共通	鷹	3土木工事共通編			

F	1	山木が自垤を牛及り	5 750 TH III				
単位: mm	3-2-10-5	3-2-10-9	3-2-10-9 D:杭径				
河 定 籪 所							
测定基準	施工延長50mにつき1ヶ所。 延長50m以下のものは、1施工箇所に つき2ヶ所。	基準高は施工延長40m (測点間隔25m の場合は50m) につき 1ヶ所。延長40 m (又は50m) 以下のものについては 1施工箇所につき2ヶ所。 ※位は施工延長20m (測点間隔25mの 場合は25m) につき1ヶ所。延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。	基準高は施工延長40m (測点間隔35m の場合は50m) につき 1 ヶ所。 庭長40 m (又は50m) 以下のものについては 1施工箇所につき 2ヶ所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの 場合は25m) につき 1ヶ所。 庭長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所 につき 2ヶ所。				
規格値	50	+ 50 - 50 - 200	+50 -50 D/4以内 -200				
测定項目	掛	基 準 高 ▽ 連壁の長さ ℓ 位 を	基準 高 ◇ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※				
工	士留・仮締切工 (中計盛土)	地中連続壁工(壁式)	出 (代)))) () () () () () () ()				
枝番	ro						
巛	ro	o	10				
短	01 夜 嶽 日	10 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	2. 仮設工				
- 神	27一般插工	2 穀種 土	20 滎褐日				
孋	3土木工事共通編	3土木工事共通編	3土木工事共通編				

(相)	3-2-12-1									
運										
測 定 基 準	製品全数を測定。		ı							
規格値	+ 5 - 0	センターボスを基準 にした孔位置のずれ	1以下	センターボスを基準 にした孔位置のずれ	1.5以下	+3	+4 2	JIS B 0403 CT13	+ 0 - 1	+1
测定項目	上 下 不	藤 を は な に に に に に に に に に に に に に	ポント 国ウー	選出	الاس > 1000mm	7 ₹L ≤100mm		7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	た ン オスの直径 タ	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -
工	────────────────────────────────────	日本 本以 学			, — 	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \			1+11	· - · R 八
条 枝番	1 1									
	黎日12		(周							
	ε ± ± € 1 € 1 € 1 € 1 € 1 € 1 € 1 € 1 € 1	工事共通編 上								

単位: 瞅 3-2-12-1龗 币 緬 定 鰄 ※2)ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。 製品全数を測定。 平面度:1個のゴム支承の厚さ(t) の最大相対誤差 票 片面削り加工も含む。 基 定 製品全数を測定 ※1)片面削り1 灵 (H/200+3) 小数 点以下切り捨て (w, L, D)/1000 JIS B 0403 CT15 JIS B 0405 粗級 S B 0403 CT13 JIS B 0403 CT14 JIS B 0417 B級 画 $\pm \ell / 100$ 0 - +1% $\pm 2.5\%$ 0 - +53 |} က +1 . |+ | |-容 JIS 猫 上沓の橋軸及び直角方 向の長さ寸法 000mm < w, L, D H > 300 mm鋳放し長さ寸法 ※1)、※2) 鋳放し肉厚寸法 ※1) L, $D \leq 1000 \text{mm}$ ≤300mm 500< w, L, D ≦1500mm 下面加工仕. 削り加工寸法 ガス切断寸法 500 < w, L, D $20 < t \le 160$ L, D ≤ 500 Ш $\ell \leq 300 \, \mathrm{mm}$ $t \le 20$ mm 0 > 300 mm160<t 严 \mathbb{H} コンクラ 卜構造 定 . ⊣į́ ≒ 田 鰄 全移動量の 平面度 組立高さ日 普通寸法 幅∞長さし直径口 単さも |鋳造費(大型ゴム支承 工) (金属支承工) 種 铸造費 Н 枝番 Ø * 27工場製作工 共通 27工場製作工 共通 經 2一般施工 2一般施工 ψ 3土木工事共通編 3土木工事共通編 繿

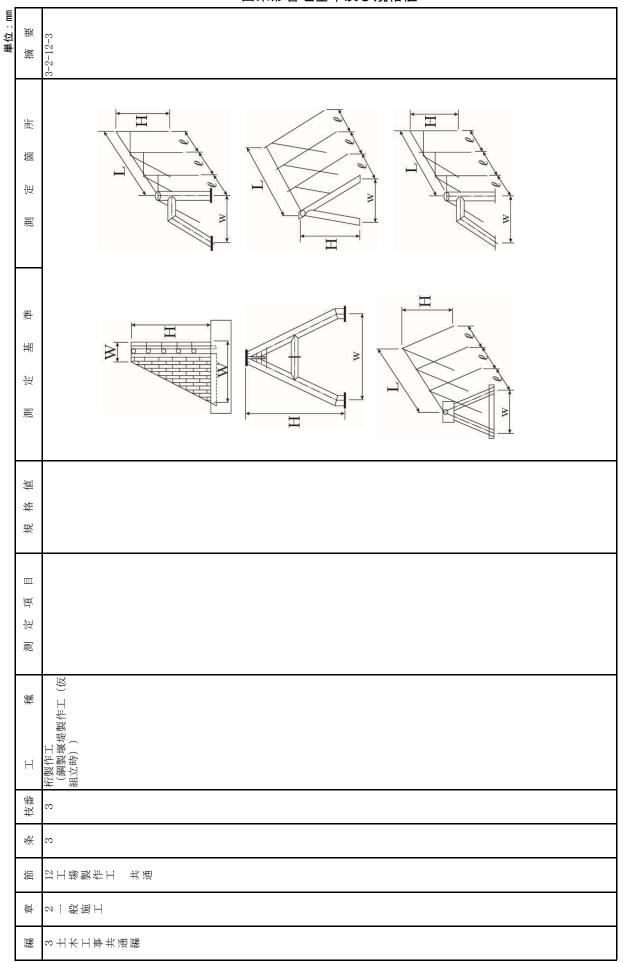
単位:mm		3-2-12-1	3-2-12-1	
班	心		u q	
東		図面の寸法表示箇所で測定。	図面の寸法表示箇所で測定。	
出 校 佰	17 10	$\pm 3 \cdots 0 \le 10$ $\pm 4 \cdots 0 > 10$	$\begin{array}{ll} \pm 2 & \text{h} \leq 0.5 \\ \pm 3 & \text{o} \\ 0.5 < \text{h} \leq 1.0 \\ \pm 4 & \text{o} \\ 1.0 < \text{h} \leq 2.0 \end{array}$	± (10+L/10)
通	作	部 部材長0 (m)	为 口 高 さ h (m)	外周長L(m)
# -		仮設材製作工	为口金物製作工	
#		ი	4	
.tr				
# 		27 一般施工27 工場製作工 共通	2. 一般施工	
ļ			3土木工事共通編	

単位:mm	播		3-2-12-3	3-2-12-3	3-2-12-3		3-2-12-3		3-2-12-3	の数値とす
	測 定 箇 所		h h h h h h h h h h h	8	w/2	- -	" 8 " 7 8 "		c C	iのh, b, wに代入する数値はmm単位の数値とす
	定 基 —	網桁等 トラス・アーチ等	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 5 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。 0 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づ 0 く試験成績表に替えることができる。	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 b:腹板高 (mm) 	(mui) 聖ハハハ: M		原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。		主要部材全数を測定。 定。 ():部材長 (mm)	tm単位の数値である。 フランジの直角度 δ,圧縮材の曲り δ」の規格値のh,
	規格値		$\begin{array}{l} \pm 2 \dots & \text{w} \leq 0.5 \\ \pm 3 \dots & 0.5 < \text{w} \leq 1.0 \\ 1.0 < \text{w} \leq 1.0 \\ 1.0 < \text{w} \leq 2.0 \\ \pm (3 + \text{w} / 2) \dots & 2.0 < \text{w} \end{array}$	h / 250	b / 150	$ m w$ \sim 200	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$	$\pm 2 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 3 \cdots \ell > 10$	0/1000	※規格値のwに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度 8, フランジの直角度 8, る。
	测定項目		7ランジ幅w(m) 腹板高h (m) 腹板間隔b' (m)	鋼桁及びト ラス等の部 材の腹板	画 海桁及びト シス等のフ ランジ鑑床 防のデッキ プレート	フランジの直角度 δ (mm)	跨 友 或 。	トラス、アーチなど	圧縮材の曲がり δ (mm)	※規格値のwに代入 ただし、「板のうる。
-	種		こる検査を (7) (7) (7) (7) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1		雅 本語	三世				
	Н		桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)							
	枝番		1.							
	⋘		က							
	短		27工場製作工 共通							
	計		2一般超工							
	孋		3土木工事共通編							

単位:mm	歯		3-2-12-3	3-2-12-3	3-2-12-3	3-2-12-3	3-2-12-3	3-2-12-3	3-2-12-3	3-2-12-3	
	测 定 箇 所		 		P q	# ************************************	9		ô The h	\$1.00 m	この数値とする。
	推	トラス・アーチ等		中央付近を測定。	両端部及び中心部 を測定。	最も外側の主桁又は主構について支点 及び支間中央の1点を測定。 L:測線上(m)) 各主構の各格点を 測定。 上: 主構の支間長 (m)	5桁(主構)端を測	· 支点及び支間中央 付近を測定。 h : 主権の適さ (mm)	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 81、82のうち大きいちの なお、設計値が5mm未満の場合は、す き間の許容範囲の下限値を0mmとす る。(例:設計値が3mmの場合、すき 間の許容範囲は0mm~8mm)	に代入する数値はm単位の数値である。 主構の鉛直度δ」の規格値のħに代入する数値はmm単位の数値とする。
	運	鋼桁等	各桁毎に全数測定。	各支点及び各支間中央付近を測定。	l	最も外側の主桁又及び支間中央の1.7 L:測線上 (m)	各主桁について10 ~12 m 間隔を測 定。 L:主桁の 支間長 (m)	どちらか—方の主桁 定。	各主桁の両端部を 測定。 h:主桁の高さ (mm)	主桁、主構の全継手数の1/81、82のうち大きいものなお、設計値が5mm未満のき間の許容範囲の下限値る。 (例:設計値が3mmの間の許容範囲はが3mmの間の許容範囲は0mm~8mm)	はm単位の数値であ の規格値のhに代
	規格値		$\pm (10 + L / 10)$ $\pm (10 + Ln / 10)$	$\pm 4 \cdots$ B ≤ 2 $\pm (3+B/2)$ \cdots B>2	$\pm 5 \cdots h \le 5$ $\pm (2.5 + h/2)$ $\cdots h > 5$	$5+L/5$ $L \le 100$ 25 $L > 100$	$\begin{array}{c} -5 \sim +5 \cdots \cdots \\ L \leq 20 \\ -5 \sim +10 \cdots \cdots \\ 20 < L \leq 40 \\ -5 \sim +15 \cdots \cdots \\ 40 < L \leq 80 \\ -5 \sim +25 \cdots \cdots \\ 80 < L \leq 200 \end{array}$	+10	3+h/1000	H 52	~
	测定項目		全長 L (m) 支間長 Ln (m)	主桁、主構の中心 間距離 B (m)	主構の組立高さ h (m)	主桁、主構の通り δ (mm)	主桁、主構のそり δ (mm)	主托、主権の橋端 における出入港 δ (mm)	主桁、主構の鉛直 度 δ (mm)	現場継手部のすき 間 81, 82 (mm)	※規格値のL, B, P, ただし、「主桁、
	*						仮組立精度				
	工		桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)								
-	女 番		1 <u>た。</u> 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、								
\downarrow	徐 校		n								
-	絙		21日總製作日								
-	栅		27一般插工								
	鷹		3土木工事共								

Ī				至年及い风信但		I
田 古	0,1					
一	T M M M M M M M M M M M M M M M M M M M			**************************************		する数値はmm単位の数値とする。
単 出 無	f 	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h:腹板高 (mm) b:腹板又はリブの間隔 (mm) w:フランジ幅 (mm)			主要部材全数を測定。	※規格値のwに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度 8 , フランジの直角度 8 」の規格値のh, b, wに代入する数値はmm単位の数値とする。
掛 格 値	w ≤ 0.5 5 < w ≤ 1.0 .0 < w ≤ 2.0 .0 < w ≤ 2.0 .0 < x ≤ 2.0	h / 250	b / 150	w/200	$\pm 3 \cdots 0 \leq 10$ $\pm 4 \cdots 0 > 10$	、する数値はm単位。 平面度 8, フランジ
画 定 垣 目	7 ランジ幅 W(m) 関板高 h(m)	鋼桁等の部板 材の腹板ウ平ゴ		# 大	的 枝 (m)	
#	: I. T. 接 查 多		,			
4 4	<u>Y</u> 01					
福						
御	70一般福日					
ů	る土木工事共通編					

単位:mm	産	2-3											
	賴	3-2-12-3											
	測 定 箇 所												
	測定基準	全数を測定。					T W	The state of the s	H	H I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			
	規格値	10	±30	±10	+30	±10	± 10	± 10	$\pm \mathrm{H}/500$				
	测定項目	部材の水平度	语 長 L	堤 臣 0	语 帽 M	语 帽 w	H お 児	ベースプレートの高さ	本体の傾き				
	工種	桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮 組立時))	/ / [7. Till								次頁に続く		
	1 <u>1</u> / <u>1</u>	3											
	⋘	3											
	節	12 工 糧	劉作	H #	刪								
	掛	- - -	(超工										
	騭	თ H ⊀	< 円 :	共運編	!								



		1		出来形管理基準及び規格値 T								
-	五瀬	3-2-12-4		3-2-12-5								
	測 定 箇 所			>	(実測値) 8.2							
	測 定 基 準	図面の寸法表示箇所で測定。		製品全数を測定。	両端部及び中央部付近を測定。							
	規格値	± 3…0≤10 ±4…0>10		0~+30	設 計 値 土4	± 2						
	测定項目	部材 部材長 (m)		部材 部材長w(m)	組合せる伸縮装置 との高さの差 仮 δ1 (mm)	立 時 フィンガーの食い 違い δ_{2} (mm)						
	L 種	檢查路製作工		鋼製伸縮継手製作工								
H	大番											
	無 条	2.工場製作工 共	圈	5 2 1 8 3 3 2 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	作工 共通							
ŀ		20一般植工	•••	0.一般栖工 1. 口夢動作口								
	鷹	3土木工事共通編		o 土木工事 共通編								
-				い、ニアニ軍士、近後								

		出水が日本至十久の流出に										
- T	五大	3-2-12-6	3-2-12-7		3-2-12-8							
	測 定 箇 所											
	測 定 基 準	図面の寸法表示箇所で測定。	図面の寸法表示箇所で測定。		軸心上全数測定。							
	規格値	± 3 ··· 0 ≤ 10 ± 4 ··· 0 > 10	±3…0≤10 ±4…0>10		b / 500	һ∕500	1+5					
	测定項目	部 部材長0 (m)	部 部材長0 (m)		上面水平度 81 (mm)	仮 組 公 本 か の の の の の の の の の の の の の	(回) P					
	工	落橋防止装置製作工	橋梁用防護柵製作工		アンカーフレーム製作 エ							
	枝番											
	₩	9	r-		∞							
	絙	27工場製作工 共通	27工場製作工 井	(周	27工場製作工 共通							
	肿	27一般插工	27一		21歳福工							
	臛	3土木工事共通編	3土木工事共通編	2	3土木工事共通編							

<u></u>	猫	3-2-12-9	3-2-12-9	3-2-12-9	3-2-12-9	3-2-12-10						
	測 定 箇 所	h ————————————————————————————————————	w/2	8								
	測定基準	各支点及び各支間中央付近を測定。	各支点及び各支間中央付近を測定。	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。	各主桁について10~12m間隔を測定。	図面の寸法表示箇所で測定。						
	規格値	$\begin{array}{l} \pm 2 \cdots \cdots \\ & w \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots \cdots \\ & 0.5 < w \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdots \cdots \\ & 1.0 < w \leq 2.0 \\ & \pm (3 + w / 2) \cdots \\ & 2.0 < w \end{array}$	w/200	$\pm 3 \cdots 0 \leq 10$ $\pm 4 \cdots 0 > 10$	$-5 \sim +5$ L≤20 $-5 \sim +10$ 20 <l≤40< th=""><th>$\pm 3 \cdots 0 \leq 10$ $\pm 4 \cdots 0 > 10$</th><th></th></l≤40<>	$\pm 3 \cdots 0 \leq 10$ $\pm 4 \cdots 0 > 10$						
	测定項目	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	5 フランジの直角度 - δ (mm)	部材長0 (m)	主祈のそりる	. 部材長0 (m)						
	重	- ム用桁製作工			放無公晤	鋼製排水管製作工部						
	H 無	پ 7 ب				鋼製排						
H	条 枝番	б				10						
-	短	2.工場製作工 共通				21日蓼敷作日						
	眦	20一般栖工 20一般栖工										
	臛	3土木工事共通編				3土木工事共通	日傭					

単位:mm	摘要	3-2-12-11
	刑	
	稇	
	逬	
	運	
-	3 値 湖 定 基 準	a・ロット塗膜厚 外面塗装では、無機ジンクリッチへイン型が関連 合計 値の、 内面塗装では内面塗装が7時に遡ん。 りの以上。 し、 測定値の最小 1ロットの大きさは、500m2とする。 信託 目標塗膜厚 1ロット当たり測定数は25点とし、各合計 値での以 たの別定は5回行い、その平均値をその方の測定値の分布、の面積が200m2に満たない場合は10m2 では11 によった。 ただし、1ロッの面積が200m2に満たない場合は10m2 では11 によった。 ただし、1ロッの面積が200m2に満たない場合は10m2 では1点とする。 ただし、1ロックに1点とする。 ただし、1ロックに1点とする。 ただし、 割定値の平均 はいまない場合は10m2 を取りでは かい。
-	規格	a. a
	ш	<u></u>
	鬥	题
	測定	
	種	
	Н	以 場 対 対
	枝番	
	⋘	
	短	27工場製作工 共通
	ቝ	2一般施工
	黑	3土木工事共通編

AIII	歯	3-2-13								
	測 定 箇 所	単径間の場合 合 L 上 L1 L2 L3	上 L	Q P		\$	ê În	~ + · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		.値とする。
	測 定 基 準	各桁毎に全数測定。	D:主桁・主構の支間長(m)	主析、主構を全数測定。 L:主桁・主構の支間長(m)	各支点及び各支間中央付近を測定。	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。	各主桁の両端部を測定。P:主桁・主構の高さ(mm)	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 81,82のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、す き間の許容範囲の下限値を0mmとす る。 (例:設計値が3mmの場合、すき 間の許容範囲は0mm~8mm)	※は仮組立検査を実施しない工事に適用。	※規格値のL,Bに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主げた、主構の鉛直度 δ 」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。
	規格値	$\pm (20 + L / 5) \\ \pm (20 + L_n / 5)$	± (10+2L/5)	± (25+L/2)	$\pm 4 \cdots$ $B \le 2$ $\pm (3+B/2) \cdots$ B > 2	±10	3+h/1000	±1		る数値はm単位の数 構の鉛直度δ」のst
	測定項目	全 長L (m) 支間長Ln (m)	通 9 8 (mm)	€ 9 8 (mm)	※主桁、主構の中心間 距離B(m)	※主桁の橋端における 出入差 δ (mm)	※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	※現場継手部のすき間 δ ₁ ,δ ₂ (mm)		※規格値のL, Bに代入す ただし、「主げた、主
	工	架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架 設) (ケーブルエレクショ	1							***
	枝番									
	₩									
	短	51 橋梁架設工								
	肿	2一般施工								
	灩	3土木工事共								
-	-		浬嬺							

瞅 単位: 3-2-14-23-2-14-2攉 币 緬 定 鰄 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 施工面積500㎡につき1ヶ所、面積500㎡以下のものは、1施工箇所につき2ヶ所。 検査孔により測定。 施工延長40mにつき1ヶ所、40m以⁻ のものは1 施工箇所につき 2ヶ所。 一連毎の両端及び支間中央について: 上下間を測定。 票 基 各桁毎に全数測定 定 主桁を全数測定。 1 施工箇所毎 施工箇所毎 鰄 ただし、吹付面に凹凸がある場合の 最小吹付厚は、設計厚の20%以上とし、平均厚は設計厚以上。 -2%法長の-4% 画 法長の-4% .200 -100.200 .200 -10-20-200容 法長の-猫 Ш 噩 桁の中心間距離 2 <5cm $t \leqq 5 cm$ $0 < 5 \mathrm{m}$ $\ell \ge 5 \, \mathrm{m}$ $\geq 5 \mathrm{m}$ $\ell \geq 5 \, \mathrm{m}$ 严 岷 赵 岷 定 岷 ∜ 選 띬 緎 N 切土法長。 盛土法長。 法長る ■させ 種 (植生基材吹付工) (客土吹付工) (離子散布工) (競球工) (第球工) (市校港工) (市を港工) (権生ツートエ) (権生のットエ) (権生筋工) (人工張芝工) (権生六工) (クレーン架設) (架設桁架設) (コンク 架設桁架設 (片持架設) (押出し架設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設工 衝) Н 枝番 Ø * 2 S 51橋梁架設工 經 7.法面工 共通 2.法面工 共通 ψ 2一般施工 2一般施工 2一般栖工 3土木工事共通編 瀘 3土木工事共通編 3土木工事共通編

=							
単位: mm	3-2-14-3						
測定簡所	a de la companya de l			م ا	\frac{1}{\lambda}		\
河 店 基 権	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測 定が困難な場合は直線法長とする。		200㎡につき1ヶ所以上、200㎡以下は2ヶ所をせん孔により測定。			1 施工箇所毎	
規格値	-50	-100	-10	-20	吹付面に凹凸がある場合の 厚は、設計厚の50%以上と 厚は設計厚以上	-200	
测定項目	0<3m	¢ le≥3m	t <5cm	両 な t ≥5cm t	ただし、吹付面に 最小吹付厚は、設 し、平均厚は設計	延 長 L	
工	吹付工 (コンクリート) (モルタル)		1			1	
枝番							
₩	က						
短	7. 法面工	共浬					
肿	27一般插下	-1					
鷹	ω 	事 共 浬 孋					
タモ		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					

単位: mm	摘要	3-2-14-4 曲線部は設計 図書による						3-2-14-4			3-2-14-6			
	箇 所			*	п в -						0	0		
	測定											Ĥ	×	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$
	測 定 基 準	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		枠延延長100mにつき1ヶ所、枠延延長100m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			1 施工箇所毎	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所.		1 施工箇所毎	全数			
	規格値	-100	-200	-30	-30	+100	-200	-100	-200	-200	設計値以上	100	土2.5度	
	測定項目	8<10m 法 長	ℓ $\ell \geq 10 \mathrm{m}$	幅 w	高 さ h	枠中心間隔 a	延 長 L	8<10m 法 声	<i>l</i>	延長 L	削孔深さ 0	配置誤差 d	せん孔方向 θ	
	工種	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)						法枠工 (プレキャスト法枠 エ)			アンカーエ			
	枝番	1						Ø						
-	≪	4						4			9			
-	:	7. 郑恒日	-					□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			1. 郑恒二			
-		27 聚菌						0.7 最複			27 簽档日			
	孋	m ± ± H	事共運	遲				m ± + 1−	軍共重	遲	3土木工事共通編			

単位:mm 摘 要	3-2-15-1						- T		3-2-15-2						
測 定 箇 所	i w														
测定基準	施工延長40m (測点間隔35mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。				施工延長40m (測点間隔25mの場合は20m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	1 施工箇所毎									
規格値	+ 20	-20	-50	-30	-50	-100	-200		1+20	-200					
测定項目	△喧舞	厚 さ t	裏込厚さ	幅 w1, w2	h < 3m	o h h≧3m	近 長 正		☆ 単	近 長 几					
事	(一般事項) 場所打擁壁工						プレキャスト雑壁工								
枝番															
₩	H								Ø						
短	57羅獅日	# 浬					5番型日 ‡								
ቝ	27一般揭	Н							21 最插口						
臛	m + + +	事共風	<u></u>						3土木工事業	水					

単位:咖啡	発							<u> </u>	4						
博	捕	3-2-15-3						3-2-15-4							
<u>‡</u>	測 定 崮 所	√ 1	 					0 ≥ 3 m							
-[1	侧	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所.					1 施工箇所毎	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所				1 施工箇所毎			
4	况 伶 順	±50	-50	-100	±0.03h かつ ±300以内	設計値以上	-200	+ 50	-50	-100	-50	-200			
4	侧压埋目	△豐東賽	h<3m も		鉛 直 度 △	格とある	延 長 L	☆ 皇 東 著	8<3 m 法	m 8 ≦0 0	厚さt ₁ , t ₂ , t ₃	延 長 L ₁ , L ₂			
	工	補強土壁工 (補強土 (テールアル メ)	(多数アンカー式補強 上口法) (ジオテキスタイルを ヨ、キギ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	用いた補強工工法)			•	井桁ブロックエ							
1	校香														
*	₩	3						4							
AAA	即	15 羅難1	共厘					5雑點工 共通							
Ħ	叶	22 共通的	7.工種					20							
Ţ	墨	σ±+	車共重					3土木工事共通編							

E								\//\/ L -	<u> </u>		<u> </u>				
- T	摘	3-2-16-3									3-2-16-3				
	定 箇 所														
	測														
	基準	- 図書により指定され 年。 - ユョン・メデッド	、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、								·図書により指定され 毎。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7、缶肩とし必要に応。 ただし、各測定値 ・ 建準高以下であるこ			
	測定	() () () () () () () () () ()									延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 た測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値 の平均値の設計基準高以下であること。				
	規格値	$-800 \sim +200$	-1000 $\sim +200$	-1200 $\sim +200$	-800 + 200	$-1000 \sim +200$	-1200 \sim $+200$	-200	-200		+200以下	-200	-200		
	項目	200ps	500ps	1000ps	250ps	420ps 600ps	1350ps	閆	承			閆	承		
	測定		電気船		下,	ルチーフ	是	+	剀		推	4	溑		
	須			東軍	恒▷						#8				
	工種	でで、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般										後渫船運転工 (グラブ後渫船) (バックホウ後渫船)			
ļ	枝番											20			
	巛	; m										n			
	節	91後熊下		Į							9. 浚渫工 共通				
	車	27 数1	暑日						27 载档						
	黨	m H K Ι	上事 共 渾] 嘿							m H K 1		リ鷹		

圉 単位 3-2-18-2 龗 币 緬 定 灵 1.3次元データによる出来形管理において「音響測深機器を用いた出来形置理要領(河川後渫)(案)」、「施工履歴データを用いた出来形管理要領(河川後渫)(案)」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を表達に対しまり出来形管理を表達する場合に適用する。 基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点付近)で、1億所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり両端と予所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1ヶ一所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。) 測精 3. 計測は平場面と法面の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は1点/m(平面投影面積当た)以上とする。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。 1 径間当たり3断面(両端及び中央) 測定。1 断面の測定箇所は断面変化4 1ヶ所とする。 (両端及び中央) 々の計測値の規格値には計 て±100mmが含まれている。 基 3ヶ所 定 当たり 鰄 径間 画し 27 庚 →影 個々の 計測値 +400以 下 画 $10 \sim +20$ 0 - +30設計值以 +10 10 ± 20 ± 20 容 平均值 型 以. 上記、鉄筋の有効 高さがマイナスの 場合 Ш \triangleright ≱ 逦 鉄筋のかぶり 鉄筋の有効高 標高較差 严 恒 40 噩 票 定 峱 革 삨 緎 亖 榖 (バックホウ液渫船) (面管理の場合) 種 炎渫船運転 Н ന 枝 巛 ന 98幾天 25床版工 經 共画 ψ 2一般施工 27 般極工 瀘 3土木工事共通編 3土木工事共通編